

仙台市文化財調査報告書第 397 集

杳形遺跡 第 2・3 次調査

—仙台市荒井東土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書—

2012 年 2 月

仙台市教育委員会

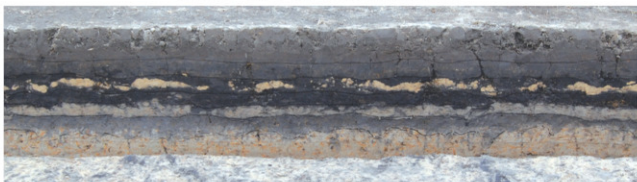


沓形遺跡第3次調査遠景（北西から）



1層
3c層
5a1層
5b層
6a1層
7a層

沓形遺跡第3次調査A区西壁北端部基本層断面（東から）



1層
2層
3b層
4b層
5b層
6a1層
7c層

沓形遺跡第2次調査B区南西壁南端部基本層断面（北東から）

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には、旧石器時代から近世に至るまで、数多くの埋蔵文化財が残っています。当教育委員会といたしましては、市民の皆様からのご理解・ご協力のもと、これらの文化財を保存・活用し次世代へ継承していけるように努めています。

本報告書は仙台市荒井東土地区画整理事業に伴い、平成22年から23年にかけて実施しました試掘・確認調査ならびに杓形遺跡第2・3次調査の調査成果をまとめたものです。

今回の調査の結果、弥生時代中期の水田跡が面積約20ヘクタールの広範囲に及ぶことが明らかになりました。また、この水田跡は、約2000年前の津波によって運ばれた砂に覆われた状態で見つかっており、津波被害によって廃絶されたことが知られます。杓形遺跡の調査は、自然災害史とともに、今後の防災・減災計画を考える上で、貴重な成果になると思われます。本報告書が学術研究はもとより、市民の皆様にも広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書刊行にあたり、事業者である仙台市荒井東土地区画整理組合様には杓形遺跡の重要性をご理解いただいた上で、調査にご協力いただきました。また、多くの方々のご協力、ご助言をいただきました。ここに深く感謝申し上げる次第です。

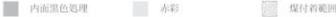

平成24年2月

仙台市教育委員会
教育長 青沼 一民

例言

1. 本書は「仙台市荒井東土地区画整理事業」に伴い、仙台市教育委員会が平成22年度、平成23年度に実施した試掘・確認調査と、奇形遺跡第2・3次発掘調査の成果についてまとめたものである。
2. 本書の作成業務は、仙台市教育委員会がテイケイトレード株式会社に委託して行った。
3. 報告書刊行にあたっては、仙台市教育委員会生涯学習部文化財調査指導係 庄子裕美・水野一夫監理の下、テイケイトレード株式会社が担当した。
4. 本書の執筆については、第1章第1節を庄子裕美、第1章第2節から第5節、第2章、第4章を森元彦（テイケイトレード株式会社）、第3章を鈴木憲夫（テイケイトレード株式会社）、第5章は庄子・森・鈴木の協議による。
5. 石器の石材鑑定は、柴田敏（考古石材研究所）が行った。
6. 本調査の実施に際し、仙台市荒井東土地区画整理組合よりご協力を賜った。
7. 発掘調査及び資料の整理に際して、次の方々から多くのご指導・ご助言を賜った。記して感謝の意を表する次第である（五十音順・敬称略）
宇田津徹朗（宮崎大学農学部）、田崎博之（愛媛大学法文学部）、外山秀一（皇学館大学文学部）、中村俊夫（名古屋大学年代測定総合研究センター）、西山要一（奈良大学文学部）、松本秀明（東北学院大学地域構想学科）
8. 本書第4図に掲載した石廂丁は、奇形遺跡の遺跡範囲で表面採集された個人所蔵品である。
9. 本書の調査成果については、すでに遺跡見学会資料や宮城県遺跡調査成果発表会資料などに紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
10. 調査・整理に関するすべての資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡例

1. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:50,000地形図「仙台」の一部を改変・縮小して使用している。
2. 遺構図の座標値は「世界測地系」を基準とし、「日本測地系」を併記している。図中の方位北は、原則として座標北を基準とした。
3. 本書に使用した標高値は海拔高度（T.P.）を示す。
4. 本文及び土層註記表に記載している土色は、『新版 標準土色帖』（小山・竹原 1977）に基づいて認定した。
5. 水田跡の調査に関する記述は、畦畔（仙台市教育委員会 1987）のプラン検出を「確認」、水田跡を覆う土層を除去することを「検出」、水田耕作土を除去することを「完掘」としている。
仙台市教育委員会1987『富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第98集
6. 水田跡を構成する畦畔及び水田区画の番号は調査次別に付した。
7. 畦畔長・区画辺長・区画面積は、遺構計測ソフトウェア上に計測した数値を示し、各区画辺長・区画面積は畦畔の下端で計測した。
8. 検出遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構別に番号を付した。遺構名の略号は、SD：溝跡、SR：流路跡、SK：土坑、PT：ピット、SX：性格不明遺構である。なお、整理作業の中で遺構でないかと判断されたものに関しては、欠番としている。
9. 出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別毎に番号を付した。
B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ成形） D：ロクロ土師器 E：須恵器 G：平瓦 I：陶器 K：石器
10. 遺物実測図の縮尺は土器1/3、石器2/3で示した。
11. 土器実測図に使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

12. 石器実測図に使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

13. 座標値及び海拔高度については、平成23年3月11日の東日本大震災以前の数値を使用している。
14. 本文中の「灰白色火山灰」（山田・庄子1980）は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田a火山灰（To-a）」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年（延喜15年）と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄 1980『宮城県に分布する灰白色火山灰』『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1979』

仙台市教育委員会 2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史 2003『古代北東北の広域テフラをめぐる問題—十和田aと白濁山（長白山）を中心に—』『日本地学会の展開』吉川弘文館

目 次

序 文

第1章	杵形遺跡の概要	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査要項	1
第3節	遺跡の立地と歴史的環境	2
第4節	調査の方法と経過	4
第5節	基本層序	7
第2章	試掘・確認調査	9
第1節	調査概要	9
第2節	検出遺構と出土遺物	9
第3節	小結	22
第3章	杵形遺跡第2次発掘調査	23
第1節	調査概要	23
第2節	5b層上面検出遺構	23
第3節	6a1層水田跡	32
第4節	7a層上面検出遺構	38
第5節	その他の出土遺物	39
第6節	小結	39
第4章	杵形遺跡第3次発掘調査	40
第1節	調査概要	40
第2節	5b層上面検出遺構	40
第3節	5b層出土遺物	48
第4節	6a1層水田跡	48
第5節	小結	59
第5章	総括	65

挿図目次

第1図	青形道路の位置図	2	第32図	6a1層 出土遺物	35
第2図	仙台平野青形道路跡周辺の地形分類図	2	第33図	6a1層 下面検出遺構 全体図	36
第3図	青形道路跡の位置と周辺の詳細	3	第34図	S16～18溝跡 平面図・断面図	36
第4図	石垣1実測図	5	第35図	S19・11溝跡、S3性格不明遺構 平面図・断面図	37
第5図	青形道路調査区設定位置図	6	第36図	7a層 上面検出遺構 全体図	38
第6図	基本層序断面図	7	第37図	S13・14溝跡 平面図・断面図	38
第7図	基本層4a層・6a2層分佈図	8	第38図	その他の出土遺物	39
第8図	S81（南道路）想定図	11	第39図	第3次調査区設定図	40
第9図	No.1調査区 平面図・断面図	12	第40図	5a層 上面検出遺構 全体図	41
第10図	No.2調査区 平面図・断面図	12	第41図	A・B区東壁、北区北壁 土層断面図	42
第11図	No.3調査区 平面図・断面図	13	第42図	A・B区内壁 土層断面図	43
第12図	No.50調査区 平面図・断面図	14	第43図	S19～23溝跡 平面図・断面図	44
第13図	No.51調査区 平面図・断面図	14	第44図	S01溝跡 出土遺物	44
第14図	No.43調査区 出土遺物	15	第45図	S81～10土坑 平面図・断面図	46
第15図	No.50調査区 出土遺物	15	第46図	S811～19土坑 平面図・断面図	47
第16図	No.51調査区 出土遺物	15	第47図	5a層 出土遺物	48
第17図	No.55調査区 平面図・断面図	16	第48図	6a1層水田跡・6a1層 上面検出遺構 全体図	49
第18図	No.55調査区 出土遺物	16	第49図	6a1層水田跡 大区画1～4 平面図	51
第19図	No.94調査区 平面図・断面図	18	第50図	6a1層水田跡 大区画5・6 平面図	54
第20図	No.94調査区 出土遺物 (1)	19	第51図	6a1層 下面検出遺構 全体図	56
第21図	No.94調査区 出土遺物 (2)	20	第52図	S04溝跡 平面図・断面図	57
第22図	No.94調査区 出土遺物 (3)	21	第53図	S81～23性格不明遺構 平面図・断面図	58
第23図	S01・2溝跡 平面図・断面図	23	第54図	S3性格不明遺構 出土遺物	58
第24図	A区北西壁 土層断面図	24	第55図	S3A・5性格不明遺構、P3ピット 平面図・断面図	59
第25図	5a層 上面検出遺構 全体図	25・26	第56図	6a1層 上面で検出された遺構及び残存部全体図	59
第26図	B区内西壁 土層断面図	27	第57図	第3次調査区6a1層水田跡水田面標高高点値分佈図(1)	60
第27図	C区内西壁 土層断面図	28	第58図	第3次調査区6a1層水田跡水田面標高高点値分佈図(2)	61
第28図	S03～6溝跡 平面図・断面図	29	第59図	第1・3次調査区6a1層水田跡水田面標高高点値分佈図	62
第29図	S07～9溝跡 平面図・断面図	30	第60図	第3次調査区6a1層水田跡水田面標高高点値分佈図(3)	63・64
第30図	S81・2土坑、S81～3性格不明遺構 平面図・断面図	31	第61図	津波堆積物の分佈断面	65
第31図	6a1層水田跡・6a1層 上面検出遺構 全体図	33・34	第62図	青形道路 第1次調査～3次調査 全体図	67・68

挿表目次

第1表	試掘・確認調査区一覧表	10	第12表	6a1層水田跡大区画3小群群計測表	52
第2表	試掘・確認調査区出土遺物集計表	22	第13表	6a1層水田跡大区画4水田群計測表	53
第3表	6a1層水田跡大区画計測表	32	第14表	6a1層水田跡大区画5水田群計測表	53
第4表	6a1層水田跡小群計測表	35	第15表	6a1層水田跡大区画6水田群計測表	53
第5表	6a1層水田跡大区画1大群群計測表	50	第16表	6a1層水田跡大区画1大群群計測表	55
第6表	6a1層水田跡大区画2小群群計測表	50	第17表	6a1層水田跡大区画2大群群計測表	55
第7表	6a1層水田跡大区画3水田群計測表	50	第18表	6a1層水田跡大区画5水田群計測表	55
第8表	6a1層水田跡大区画1大群群計測表	50	第19表	6a1層水田跡大区画2大群群計測表	55
第9表	6a1層水田跡大区画2小群群計測表	52	第20表	6a1層水田跡大区画3小群群計測表	55
第10表	6a1層水田跡大区画2水田群計測表	52	第21表	6a1層水田跡大区画6水田群計測表	56
第11表	6a1層水田跡大区画3大群群計測表	52			

写真図版目次

図版1	試掘・確認調査 調査区① (No.1・3・43)	69	図版12	第2次調査 6a1層 上面・7a層 上面検出遺構、出土遺物 (A区2層、C区6a1層)	80
図版2	試掘・確認調査 調査区② (No.5・51)	70	図版13	第3次調査 5a層 上面検出遺構、6a1層水田跡確認状況	81
図版3	試掘・確認調査 調査区③ (No.55・94)	71	図版14	第3次調査 6a1層水田跡確認・検出状況	82
図版4	試掘・確認調査 出土遺物① (No.43・50・51・55 S81土坑)	72	図版15	第3次調査 6a1層水田跡確認・検出状況、調査区基本層断面	83
図版5	試掘・確認調査 出土遺物② (No.94)	73	図版16	第3次調査 調査区基本層断面、6a1層 上面・7a層 上面検出遺構	84
図版6	試掘・確認調査 出土遺物③、石垣1	74	図版17	第3次調査 6a1層 上面検出遺構、残存部	85
図版7	第2次調査 5a層 上面検出遺構、A区-1 6a1層水田跡検出状況	75	図版18	第3次調査 出土遺物、遺跡見学会・土層転写調査風景	86
図版8	第2次調査 A・B・C区6a1層水田跡検出状況	76			
図版9	第2次調査 A・B・C区6a1層水田跡検出状況	77			
図版10	第2次調査 B・C区6a1層水田跡小群群確認・検出状況、調査区基本層断面	78			
図版11	第2次調査 調査区基本層断面、6a1層 上面・下面検出遺構	79			

第1章 杵形遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

仙台市荒井東土地区画整理事業は、平成27年度に開業する仙台市高速鉄道東西線の（仮称）荒井駅を活用した、仙台市東部地域の中心となる新しい市街地を整備する事業である。事業計画地内の東部には、杵形遺跡が所在しており、また未知の遺跡の存在も予測された。杵形遺跡では平成19・20年に仙台市高速鉄道東西線建設工事に伴う発掘調査が実施され、津波堆積物に覆われた弥生時代の水田跡が検出されている。

平成22年になって、仙台市荒井東土地区画整理組合より仙台市教育委員会へ仙荒東区第12号で提出された「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」に基づき、事業地内での埋蔵文化財の取り扱いについて協議を進め、平成22年5月から事業計画地内を対象に試掘・確認調査を実施し、その結果を踏まえて、本調査等の対応を、工事予定との調整を図りながら行うことになった。

試掘・確認調査の結果、8月には、杵形遺跡の隣接地において、弥生時代の水田跡の広がりが、より広範囲に及ぶことが判明した。そのため仙台市教育委員会は、仙台市荒井東土地区画整理組合に、H22教文第614号「仙台市荒井東土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果について（中間報告）」を提出し、平成22年9月3日に遺跡範囲を南側へ拡大した。これを受け、仙台市荒井東土地区画整理組合は仙荒東区第40号「仙台市荒井東土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について（依頼）」を仙台市教育委員会へ提出した。これに基づき、仙台市教育委員会は、水田跡の残存状況が良好と思われる箇所に調査区を設定し、平成22年8月から第2次調査（2,295㎡）を行った。また9月以降の試掘・確認調査の結果、遺跡範囲は北西側にも広がることが判明し、平成23年3月24日に約20ha（207,600㎡）に拡大した。平成23年6月から第3次調査（2,200㎡）の本調査を実施した。

第2節 調査要項

遺跡名称	杵形遺跡（第2・3次） 宮城県遺跡登録番号01563
調査原因	仙台市荒井東土地区画整理事業に伴う発掘調査
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課 調査指導係 主事 鈴木 隆 主事 庄子裕美
調査組織	テイケイトレード株式会社 主任調査員 森 元彦 調査員 鈴木憲夫 調査補助員 高橋尚敏

1. 平成22年度試掘・確認調査

所在地	宮城県仙台市若林区荒井字小荒井東・矢取東・杵形・福在家・御散田・舞台・揚戸・広瀬・広瀬東・南原田
調査面積	2,867㎡
調査期間	平成22年5月19日～平成22年12月27日

2. 平成22年度第2次調査

所在地	宮城県仙台市若林区荒井字広瀬東地内
調査面積	2,295㎡
調査期間	平成22年8月31日～平成22年12月23日

3. 平成23年度第3次調査

所在地	宮城県仙台市若林区荒井字矢取東地内
調査面積	2,200㎡
調査期間	平成23年6月13日～平成23年10月20日

4. 平成23年度報告書作成・刊行

報告書作成期間	平成23年11月25日～平成24年2月29日
---------	------------------------

第3節 遺跡の立地と歴史的環境

1. 地理的環境

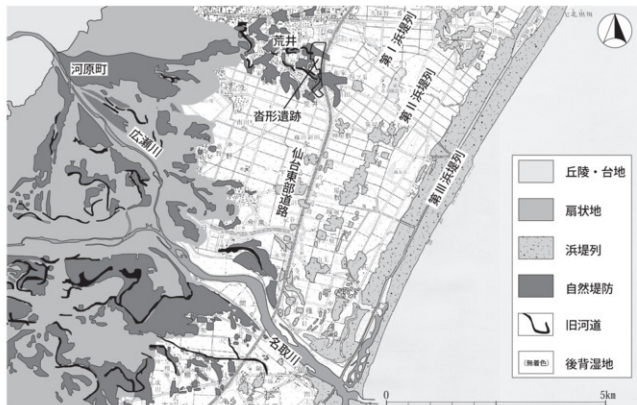
沓形遺跡は仙台市若林区荒井字矢取東・沓形他に所在し、仙台駅より南東方向に約6km、仙台東部道路西側に隣接する地点に位置する。現海岸線からの距離は約4.0～4.5kmである。

地形的には沓形遺跡は仙台平野中部にある。仙台平野中部は、名取川とその支流の広瀬川が形成する扇状地が広がる部分と、海岸へと続く低地の部分から構成される。扇状地には砂質堆積物からなる自然堤防群が放射状に伸び、一部は隣接する低地上にも伸びている。低地は、それらの自然堤防と粘土層からなる後背湿地と、砂質地盤で過去の海岸線である浜堤列で構成される。浜堤列は3列（第Ⅰ・第Ⅱ・第Ⅲ）にわたり海岸線と平行に伸び、第Ⅰ浜堤列は5000～4500yrBP、第Ⅱ浜堤列は2000～1700yrBP、第Ⅲ浜堤列は700yrBPから現在に形成された地形である。

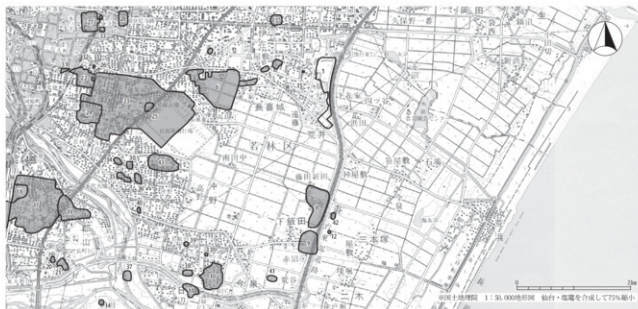
沓形遺跡は上述した扇状地末端部から東側の低地側に約2km、海岸線より約4kmの地点、浜堤列の一番内陸側に伸びる第Ⅰ浜堤列の内側に位置する。また、河原町から東へと伸びる自然堤防が荒井付近で放射状に分岐して沓形遺跡内を横断する形で伸びており、第Ⅰ浜堤列の内側に消滅している。第1次調査区は、一部自然堤防をまたぐように、主に後背湿地に立地し、周辺の標高は2～3mである。第2次調査区は後背湿地に立地し、調査地点周辺の標高は2～4mである。第3次調査区は、主に後背湿地上に立地し、周辺の標高は2～4mである。



第1図 沓形遺跡の位置図



第2図 仙台平野沓形遺跡周辺の地形分類図



No.	遺跡名	類別	時代	No.	遺跡名	類別	時代
1	西平遺跡	生活遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	23	南小泉遺跡	塚墓・集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世
2	中在家南遺跡	集落・水田	弥生・古墳・平安・中世・近世	24	若林城跡	城跡・古墳・集落	古墳・平安・中世・近世
3	押口遺跡	集落地・水田	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	25	国史跡 湯尾塚古墳	古墳(前方後円墳・前方後方墳)	弥生・古墳
4	高野山御堂遺跡	円墳	古墳	26	高野山遺跡	古墳	古墳
5	高野山南遺跡	集落	古墳～平安	27	国史跡 御堂園分寺跡	跡	奈良・平安
6	高野山東芝原跡	集落	奈良・平安	28	国史跡 御堂園分寺跡	跡	奈良・平安
7	北原教遺跡	集落	平安・中世・近世	29	藤分寺東遺跡	集落	平安
8	藤分南遺跡	集落・古墳・水田	弥生・古墳・平安	30	神護寺遺跡	建物跡・集落地	奈良・平安
9	下高田遺跡	集落・塚墓	古墳・奈良・平安・中世	31	保春院法華遺跡	敷石地・塚墓	平安・中世・近世
10	今泉遺跡	城跡・集落・敷石地	縄文～近世	32	法皇塚古墳	円墳	古墳
11	高野山北遺跡	集落・水田・塚墓	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	33	藤原寺東遺跡	集落・堀	奈良・平安・近世
12	高野山御堂古墳	円墳	古墳	34	妙押1遺跡	敷石地	古墳・奈良・平安
13	高野山南遺跡	円墳	古墳	35	神護寺遺跡	敷石地	古墳・奈良・平安
14	大塚山古墳	円墳	古墳	36	中野内遺跡	集落地	弥生・古墳・奈良・平安
15	高野山南東遺跡	集落跡	弥生・古墳	37	法皇塚遺跡	敷石地	古墳
16	高野山南東遺跡	集落・水田・塚墓	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	38	高田山遺跡	集落	弥生・古墳・平安
17	藤分遺跡	瓦物・寺院・敷石地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	39	上原教遺跡	敷石地	古墳・奈良・平安
18	西平遺跡跡	集落	縄文・弥生・古墳	40	河原路遺跡	敷石地	古墳・奈良・平安
19	高野山遺跡	集落・集落地・水田	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	41	高野山遺跡	敷石地	奈良・平安
20	元ノ上遺跡	水田	古墳・奈良・平安・中世	42	高野山遺跡	敷石地	古墳・奈良・平安
21	元ノ上遺跡	集落・敷石地	弥生・古墳・奈良・平安	43	神野城跡	城跡	中世
22	藤原城跡	集落・塚墓・敷石地	縄文・古墳・平安・中世・近世				

第3図 杵形遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 歴史的環境

今回の調査では、弥生時代中期中葉の水田跡が良好な状態で検出されたことから、この時代と前後する周辺の遺跡を概観しておきたい。扇状地における遺跡は、旧石器時代から認められ、縄文時代中期中葉以降は集落の形成が継続して認められている。杵形遺跡周辺の低地では人間の活動の痕跡が確認されるのは、縄文時代後期になってからで、高田B遺跡では自然堤防において、後期中葉の堅穴住居跡が1棟見つかっており、その後、後期後葉から晩期を通して遺物が出土している。同様の遺物の出土は、高田B遺跡に近い今泉遺跡でも認められ、両遺跡と、その周辺には縄文時代後期以降、集落が営まれていたことが知られる。

弥生時代にしては、水田稲作が始まり後背湿地の土地利用が進められ、中期中葉には安定した生業基盤に支えられた集落が営まれていることが知られる。杵形遺跡の周辺では中在家南遺跡、押口遺跡がこの時期の土器や石器とともに木製品が多量に出土しており、その中には鎌や鋤、整枝など、多様な木製農具や建築材などがあり、農耕を含めて集落における具体的な作業を復元するうえで貴重な資料となっている。両遺跡の周辺には出土物から当時の居住域が形成されていたと考えられるが、中在家南遺跡では土坑墓と土器棺墓で構成されるこの時期の墓域が発見されている。両遺跡の居住域と墓域の時期は弥生時代中期中葉であり、杵形遺跡の6a1層水田跡の時期と同じであり、これらの遺跡周辺には、居住域・墓域・生産域から構成される一つの集落が存在していると考えられている。その後、杵形遺跡の生産域は津波堆積物である基本層5b層に覆われてそのまま廃絶し、集落の営みも一旦途絶える。杵形遺跡周辺で再び遺構・遺物が検出されるのは古墳時代前期になってからで、杵形遺跡で水田跡、中在家南遺跡で方形周溝墓などが検出されている。

第4節 調査の方法と経過

1. 調査の方法

(1) 調査区の設定

試掘・確認調査区及び第2次調査区、第3次調査区の設定は、国家座標(3級基準点 世界測地系: X-195693.601 m・Y 9963.038 m 旧日本測地系: X-196002.329 m・Y 10263.045 m)から設定を行った。各調査区の計測は、国家座標に基づいた既知点を利用し、測量作業に必要な基準点を新設した。試掘・確認調査区の規模は3m×10m(30㎡)を基本とし、調査の状況や現況に合わせて、調査区の拡張や規模の縮小を行った(第1表を参照)。第2次調査の調査区名は計画道路ごとにA区～C区に分け、さらに枝番号を付した。第3次調査の調査区名は、調査区を分断している水路の北側をA区、南側をB区として調査を行った。

(2) 調査の方法

試掘・確認調査は現代の耕作土を重機で掘削し、遺構精査と側溝の掘り下げは人力で行った。側溝は排水と土層の観察を兼ねたものである。表土掘削及び遺構調査により発生した残土は調査区の脇にブルーシートを敷き、仮置きした。第2・3次調査は基本層5b層直上までを重機で掘削し、以下を人力により掘り下げを行った。

平面図はトータルステーションを使用し、CADソフトPadras-T3Di(株式会社パスコ)で作図を行った後、編集をグラフィックソフトIllustrator(Adobe Systems)で行った。図版及び本文に記載したグリッドは、第1次調査で設定したグリッドを使用している。断面図はトータルステーションとデジタルカメラを用いた写真実測を行い、一部計測員による計測・図化を併用した。出土遺物は出土年月日順に番号を付し、層位別・遺構別に取上げ、登録を行った。

調査終了後、重機による発生土の埋め戻しを実施した。この際、十分な転圧を行い、現状の復旧に努めた。

2. 調査の経過

(1) 平成22年度調査

①試掘・確認調査

試掘・確認調査は、事業地約33.7haのうち、道路、調整池などの公共用地約11.2haを対象とし、97箇所で行った。№60、№61、№97が確認調査、他は試掘調査である。総面積は2,867㎡である。

調査の結果、52箇所の調査区で6a1層水田跡の耕作土が確認され、このうち6箇所の調査区で畦畔が検出された。また、区画整理事業地南西部の調査区(№39・43・44・50・51・94)でSR1(流路跡)を確認している。

下層調査は2箇所の調査区(№12・43)で行った。

②第2次調査

第2次調査は、平成22年8月31日から12月23日の間で69日間実施された。調査面積は2,295㎡である。調査対象地の北東側1,509㎡については、調査開始時には水田として使用されていたため、南西側(786㎡ A区-1、B区-1、B区-2)の調査を先行して行い、北東側(1,509㎡ A区-2、B区-3、B区-4、C区-1、C区-2)の調査は稲刈りが終了した後、10月12日から調査を開始した。

試掘・確認調査では、基本層3a層の残存状況が良好ではなく、基本層4a層も1箇所のみで確認されたため、この調査は、重機を使用しての掘削を5b層(津波堆積物)の直上までとし、5b層以下を人力で調査を行った。

南西側の調査は11月2日に終了し、北東側の調査は12月23日に終了した。

(2) 平成23年度調査

①第3次調査

第3次調査は、平成23年6月13日から10月20日の間で77日間行われた。調査面積は2,200㎡である。試掘・確認調査では、水田耕作土の3a層の残存状況が良好でなく、4a層が確認されなかったため、この調査は、重機を使用しての掘削は5b層(津波堆積物)の直上までとし、5b層以下を人力で調査を行った。B区は中央部が良好に遺存していたが、北東部及び南部の遺存状況が悪くまばらな分布状況であった。

8月27日には遺跡見学会が開催され、128名の参加があった。

②報告書作成

報告書の作成は平成23年11月24日から平成24年2月29日の間で60日間行った。

3. 水田跡について

(1) 水田跡の構造

水田跡の構造は、「成立基盤」と「水田形態」の各属性の相関から類型化することによって理解する方法が提起されている（仙台市教育委員会1987、斎野2005a・b）。成立基盤は開田地の設定方法であり、地形面から、Ⅰ：緩傾斜面（勾配1%前後以上）、Ⅱ：ほぼ平坦な地形面（勾配1%前後以下）、Ⅲ：谷状の地形面、に分類され、水田形態は、A：水田区画が地形面の勾配に合わせて行われているもの、B：水田区画の主たる要因が地形面の勾配とは異なり、小区画を指向するもの、に分類されている（仙台平野で検出された弥生時代から古墳時代の水田跡は、ⅡB類を主として、ⅠA類も少数認められる傾向にある）。畦畔には、水田域の区画や水田域の地形変換点などに設けて区画する基軸畦畔、栽培植物の生育単位を区画する区画畦畔があり、水田形態Bでは、隣接し合う複数の水田区画の広がりにおいて、それらの田面の標高差が10cm以下となるように区画する区割畦畔の存在が考えられており、この区割畦畔による区画は、基軸畦畔による区画を大区画、区画畦畔による区画を小区画とした場合、それらとは異なる区画：中区画とされている。なお、ここでは水田区画の田面標高差10cm以下を水田として機能する条件としている（藤原1984）。

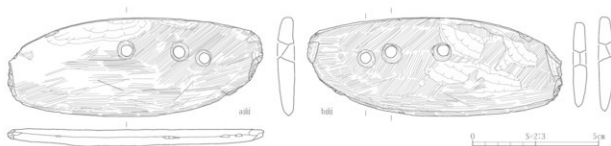
(2) 水田面の標高測点値について

水田跡は、畦畔・畦畔により画された区画・水路・水口などによって構成されている遺構であり、その構造の把握を行ううえでは、水田跡の上面検出において特に慎重な調査が必要とされる。今回の沓形遺跡の第2・3次発掘調査でもこの点に留意して水田面の検出を行い、検出した畦畔・水田面（水田区画内の耕作土上面）では、トータルステーションを用いた三次元計測を行い標高値をmm単位で測定した。

水田面で測定した標高値から水田区画の方法を理解するための手法として、標高測点値分布の方法がある（仙台市教育委員会1987・1991等）。水田区画一区画ごとの標高測点値の分布域とその集中箇所の違いは、用水の流れ方を始めとする水田区画の性格を把握する手段として有効である。沓形遺跡の水田跡上面の標高測点値分析では、標高値（＝Z座標）と平面位置（＝X・Y座標）の三軸の数値を有するものとして取り扱い、標高値と測量位置の関係性を開示するため、最終的に図面へと還元した（仙台市教育委員会2010a）。

4. 遺跡範囲内で表面採集された石磨丁

第4図に示した磨製石磨丁は、沓形遺跡の範囲内で、調査以前に表面採集されたものである。検出された弥生時代の水田跡に伴うと考えられる。



石磨丁観察表

図版番号	種別	図幅	出土位置		法量 (cm)		重量	石材	備考	写真図版番号	登録番号		
			調査区	遺構	層位	全長						幅・厚	厚立
4	石磨	石磨丁	—	—	—	101	3.9	0.65	—	粘板岩	楕円3孔	6-8	—

第4図 石磨丁実測図



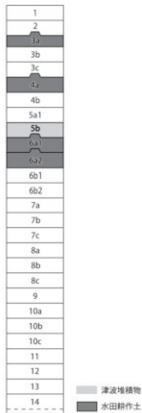
第5図 香形遺跡調査区設定位置図

第5節 基本層序

試掘・確認調査、沓形遺跡第2・3次発掘調査における基本層序は、平成19年から平成20年にかけて調査が実施された沓形遺跡第1次発掘調査の調査成果（土層断面図、土層記述、土層記録写真）をもとに観察を行い、第1～7層までは層序の対応が認められた。8層以下は、№12調査区で確認したが、層序の対応ができなかった。また、沓形遺跡第1次発掘調査で確認されていた基本層5a2層、7d層は分布していない。

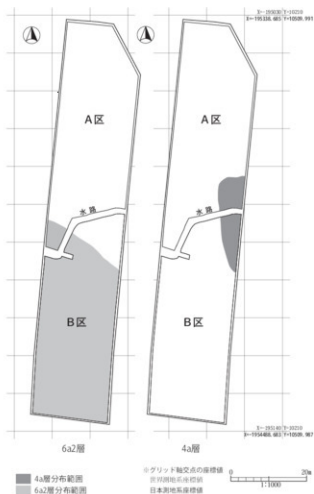
基本層は大別14層、細別27層を確認した。このうち水田耕作土は3a層（古代～中世）、4a層（古墳時代前期）、6a1層（弥生時代中期中葉）、6a2層（弥生時代中期中葉以前）である。

- 1層** 黒色粘土質シルト。第2・3次調査区及び92箇所の試掘・確認調査区で認められた現代の水田耕作土である。層厚は10cm～38cm。
- 2層** 黒褐色粘土質シルト。第2・3次調査区の全域と6箇所の試掘・確認調査区で認められた耕地整理前の現代の耕作土である。層厚は3cm～30cm。
- 3a層** 黒褐色シルト質粘土。第2次調査区及び42箇所の試掘・確認調査区で認められた水田耕作土である。下面に顕著な凹凸があり、灰白色火山灰ブロック（径0.5cm～3cm）を少量含む。層厚は2cm～20cm。
- 3b層** 黒褐色粘土。第2・3次調査区及び11箇所の試掘・確認調査区で認められた自然堆積層である。層厚は3cm～12cm。一部では、この層の中部に灰白色火山灰の自然堆積した層が確認される。
- 3c層** 黒褐色シルト質粘土。第3次調査区及び3箇所の試掘・確認調査区で認められた自然堆積層である。泥炭質の粘土との互層を成す。層厚は2cm～20cm。
- 4a層** 黒褐色シルト質粘土。第3次調査区東部及び1箇所の試掘調査区で認められた古墳時代前期の水田耕作土である。下面に顕著な凹凸があり、5b層の砂粒と6a1層をブロック状に含む。層厚は4cm～18cm。第3次調査区で確認した4a層の範囲は第7図に示した。
- 4b層** 黒色シルト。第2次調査区及び2箇所の試掘調査区で認められた自然堆積層である。層厚は3cm～6cm。
- 5a1層** 黒褐色シルト質粘土。第2・3次調査区及び18箇所の試掘・確認調査区で認められた自然堆積層である。下部に砂を含むところがある。
- 5b層** 黒褐色砂。第2・3次調査区及び19箇所の試掘・確認調査区で認められた自然堆積層である。5b層は第1次調査において約2000年前の津波堆積物と判明している（松本・吉田2010）。層厚は5cmほどで、地点的に1cm～6cmの幅がある。
- 6a1層** 黒褐色シルト質粘土。第2・3次調査区及び52箇所の試掘・確認調査区で認められた弥生時代中期中葉の水田耕作土である。下面に顕著な凹凸があり、植物遺体を少量含む。層厚は2cm～24cm。
- 6a2層** 黒褐色粘土質シルト。第3次調査及び2箇所の試掘・確認調査区で認められた弥生時代中期中葉以前の水田耕作土である。色調は6a1層よりやや明るい。下面に顕著な凹凸があり、植物遺体を少量含む。層厚は3cm～10cm。第3次調査区における6a2層の範囲は第7図に示した。
- 6b1層** 黒褐色シルト。№33調査区で認められた自然堆積層である。6a1層（水田耕作土）の母材層の一部と推定される。植物遺体を少量含む。層厚は2cm～5cm。



第6図 基本層序模式図

- 6b2層 黒褐色シルト。№33調査区で認められた自然堆積層である。6a1層（水田耕作土）の母材層の一部と推定される。6b1層より色調が暗く、植物遺体を少量含む。層厚は6cm～8cm。
- 7a層 灰黄褐色粘土質シルト。第2・3次調査区及び97箇所の試掘・確認調査区で認められた自然堆積層である。植物遺体を少量含む。層厚は3cm～23cm。
- 7b層 灰黄褐色粘土質シルト。第2・3次調査区及び14箇所の試掘調査区で認められた自然堆積層である。色調は7a層よりやや暗くなる。植物遺体を少量含む。層厚は4cm～8cm。
- 7c層 灰黄褐色砂質シルト。第2・3次調査区及び10箇所の試掘調査区で認められた自然堆積層である。地点によって土質に差（砂質シルト～砂まで）が見られる。植物遺体を少量含む。層厚は4cm～18cm。
- 8a層 緑灰色砂質シルト。自然堆積層である。植物遺体を少量含む。層厚は6cm～22cm。
- 8b層 暗緑灰色砂質シルト。自然堆積層である。8a層よりやや暗い色調。植物遺体を少量含む。層厚は6cm～16cm。
- 8c層 暗緑灰色砂質シルト。自然堆積層である。植物遺体を少量含む。層厚は6cm～8cm。
- 9層 緑灰色砂。自然堆積層である。植物遺体を少量含む。層厚は3cm～5cm。
- 10a層 暗緑灰色砂質シルト。砂層が間層として入る。層厚は6cm～20cm。
- 10b層 暗オリーブ灰色砂質シルト。自然堆積層である。下部に多量の植物遺体を含む。層厚は23cm～30cm。
- 10c層 オリーブ灰色砂質シルト層。自然堆積層である。砂層が間層として入る。層厚は7cm～20cm。
- 11層 オリーブ灰色砂質シルト層。自然堆積層である。下部に多量の植物遺体を含む。層厚は5cm～13cm。
- 12層 暗オリーブ灰色砂質シルト。№12調査区で確認された自然堆積層である。砂層が間層として入る。層厚は2cm～6cm。
- 13層 暗緑灰色砂質シルト層。自然堆積層である。植物遺体を多量に含む。層厚は12cm～16cm。
- 14層 暗オリーブ灰色砂質シルト。自然堆積層である。砂層が間層として入る。植物遺体を多量に含む。層厚は25cm～38cm。



第7図 基本層4a層・6a2層分布図

第2章 試掘・確認調査

第1節 調査概要

調査は、土地区画整理事業地内に97箇所(試掘調査94箇所、確認調査3箇所)の調査区を設定して実施された。調査期間は平成22年5月19日から12月27日までである。途中8月19日から10月3日までは調査を行っていない。

調査区は3m×10mを基本とし、7箇所(№1・12・18・38・39・50・94)の調査区は拡張を、9箇所の調査区(№31・66・68～70・74・96～98)は縮小をした。また、2箇所(№12・43)の調査区で下層調査を行った。97箇所の調査区の総面積は2,867㎡である。

第2節 検出遺構と出土遺物

調査成果は第1表に示した。検出した遺構は、弥生時代中期中葉の6a1層水田跡と、古墳時代前期(埴笠式期)の土坑1基、古代以降に属する溝跡6条、ピット2基などである。また、調査対象地南西部より自然流路跡が検出され、遺物が出土した。また、第1次調査で検出されていた水田跡の耕作土、基本層3a層(平安時代～中世)、基本層4a層(古墳時代前期)、基本層6a2層(弥生時代中期中葉以前)が確認された。

遺物は34箇所の調査区から弥生土器66点、非クロ土師器1862点、クロ土師器15点、須恵器26点、陶磁器65点、瓦9点、石器7点、礫48点の合計2098点が出土した。出土数量が多かったのは№43・50・94調査区で、遺物の大半はSR1(流路跡)から出土したものである。

以下、6a1層水田跡を検出した調査区とSR1を検出した調査区を中心に報告する。また、第2・3次調査区内に含まれる調査区(№60・61・96・97調査区)の成果は第3・4章の報告に含めた。

№.1 調査区(第9図)

J-2グリッドに位置する。確認した基本層は1層、3a層、5b層、6a1層、7a層、7b層である。調査は1層除去後、3a層上面より平面精査を行い、5b層上面、6a1層上面で遺構確認を行った。6a1層水田跡の畦畔を検出したため平面的な調査は6a1層上面までとした。この畦畔は南東から北西方向に延びる。方向はN-38°-Wで、下端幅142cm～152cm、水田面と畦畔の比高差は2～3cmを測る。

№.3 調査区(第10図)

K-2グリッドに位置する。確認した基本層は1層、3a層、5b層、6a1層、7a層である。調査は1層除去後、3a層上面より平面精査を行い、5b層上面、6a1層上面で遺構確認を行った。5b層上面でSD1を検出した。幅49cm～53cm、確認面からの深さ10～25cmを測る。6a1層水田跡の畦畔を検出したため、平面的な調査は6a1層上面までとした。この畦畔は中央部に水路を伴う幅5mを超える大畦畔で、南から北方向に延びる。方向はN-5°-Wで、下端幅550cm、水田面と畦畔の比高差は5～8cmを測る。畦畔中央部に検出した水路(SD2)は、幅45cm～80cm、確認面からの深さ15cmを測る。SD2の堆積土は5b層(津波堆積物)である。

№.43 調査区(第11・14図)

J-5グリッドに位置する。確認した基本層は1層、7a層である。7a層上面でSR1(流路跡)を検出した。SR1の範囲は調査区の大部分を占める。SR1の深度を調査するため調査区の北東部分を拡張し、深掘り調査を行った。河床と考えられる砂層までの深さは、地表から約3mであった。出土した遺物は452点(内訳は第2表参照)である。そのうち土師器4点(第14図1～4)を図示した。

第14図1は裏の上半部破片である。丸みのある体部から外反する口縁部へと至る器形である。2・3は小型の裏である。4は壺である。内外面ともに摩滅が著しく調整は不明である。これらは器形の特徴と調整から、古墳時代中期の土器(南小泉式～引田式)と考えられる。

第1表 試掘・確認調査区一覧表

No.	調査種別	試掘調査区の規模	基本層					60cm幅未満埋蔵物		水路	遺物	備考
			土層	土層	土層	60cm幅未満埋蔵物	60cm幅未満埋蔵物	水路	水路			
1	試掘調査	3×10m + 12.5m	42.5	△	○	○	○					
2	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○					
3	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○	○	水堀	○	本館の東壁と土樋跡	
4	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
5	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
6	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
7	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
8	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
9	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
10	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
11	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
12	試掘調査	3×10m + 12.5m	42.5	△	○	○	○			○		
13	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
14	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
15	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○	本館の東壁と土樋跡	
16	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
17	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
18	試掘調査	3×10m + 3.5m	33.5	△	○	○	○		△路差	○		
19	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
20	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
21	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
22	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
23	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
24	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
25	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
26	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
27	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
28	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
29	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
30	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
31	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
32	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
33	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
34	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
35	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
36	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
37	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
38	試掘調査	3×10m + 25.8m	35.8	△	○	○	○			○		
39	試掘調査	3×10m + 11.5m	41.5	△	○	○	○			○		
40	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
41	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
42	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
43	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
44	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
45	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
46	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
47	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
48	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
49	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
50	試掘調査	3×10m + 30.0m	60.0	△	○	○	○			○		
51	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
52	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
53	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
54	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
55	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○	古墳時代前期の土器検出	
56	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
57	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
58	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
59	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
60	確認調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
61	確認調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
62	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
63	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
64	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
65	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
66	試掘調査	3×5m	15.0	△	○	○	○			○		
67	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
68	試掘調査	3×5m	15.0	△	○	○	○			○		
69	試掘調査	3×3m	9.0	△	○	○	○			○		
70	試掘調査	3×3m	9.0	△	○	○	○			○		
71	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
72												
73	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
74	試掘調査	3×3m	9.0	△	○	○	○			○		
75	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
76	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
77	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
78	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
79	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
80	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
81	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
82	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
83	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
84	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
85	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
86	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
87	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
88	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
89	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
90	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
91	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
92	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
93	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
94	試掘調査	3×10m + 28.4m	38.4	△	○	○	○			○		
95	試掘調査	3×10m	30.0	△	○	○	○			○		
96	試掘調査	2×4m	8.0	△	○	○	○			○		
97	確認調査	2×4m	8.0	△	○	○	○			○		
98	試掘調査	2×4m	8.0	△	○	○	○			○		
99	試掘調査	2×4m	8.0	△	○	○	○			○		
合計			3862.0									

※No.7調査区には土溝

※基本層の埋蔵は、土層が存在している場合を○、土層が削平されている等、残存状況が良好でない場合を△としている。

No.50 調査区 (第12・15図)

J-5グリッドに位置する。確認した基本層は1層、7a層である。7a層上面でSR1(流路跡)を検出した。SR1は調査区の北東部で検出した。出土した遺物は452点(内訳は第2表参照)で、3点を図示した。

第15図1土師器の高環の脚部である。古墳時代中期の土器(南小泉式~引田式)と考えられる。2はロクロ土師器の坏である。内面は丁寧なミガキ調整後に、黒色処理が施される。3は須恵器の壺である。2・3の時期は古代である。

No.51 調査区 (第13・16図)

J-5グリッドに位置する。確認した基本層は1層、7a層である。7a層上面でSR1(流路跡)を検出した。SR1は調査区の南端部を除く全域で確認した。出土した遺物は239点(内訳は第2表参照)で、3点を図示した。

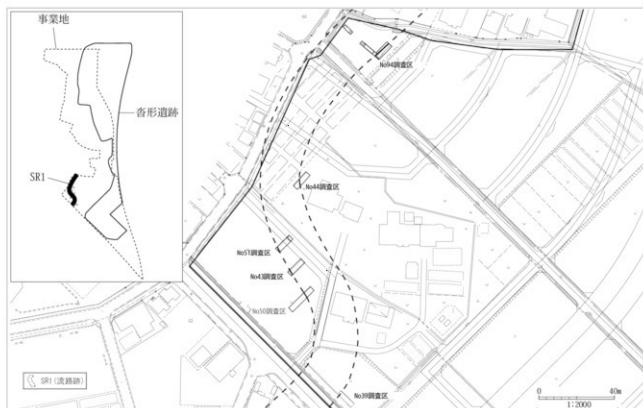
第16図1は甕の口縁部破片である。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整が、頸部内面にヘラケズリ調整、頸部外面にハケメ調整が施される。2は甕の底部である。3は須恵器の壺の底部破片である。1・2は、古墳時代前期~中期の土器(塩釜式~引田式)と考えられる。3の時期は古代である。

No.55 調査区 (第17・18図)

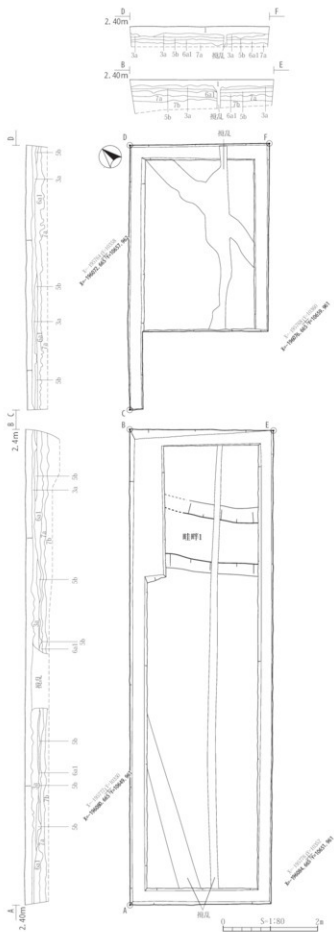
G-3グリッドに位置する。確認した基本層は1層、6a1層、7a層、7b層である。

遺構は6a1層上面で、調査区北西隅にSK1を検出した。平面形は不整楕円形を呈し、長軸132cm、短軸102cm、確認面からの深さは80cmを測る。断面形は舟底形を呈し底面は平坦である。遺物は埋没過程で混入したと考えられる。出土遺物は142点(内訳は第2表参照)で、SK1から出土した土器3点を図示した。

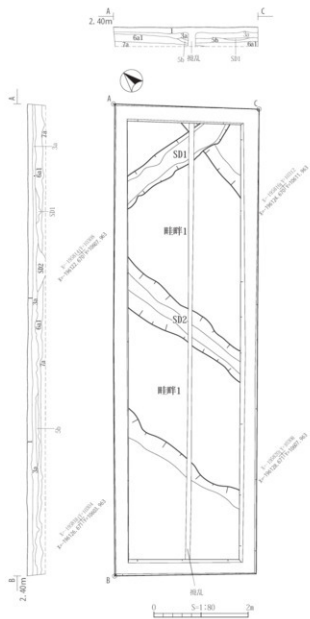
第18図1は甕の口縁部~体部破片である。2は甕の体部破片である。3は三窓の透かし孔を有する器台の脚部である。これらは器形の特徴と調整から、古墳時代前期の土器(塩釜式)と考えられ、遺構の時期を示している。



第8図 SR1(流路跡)想定図



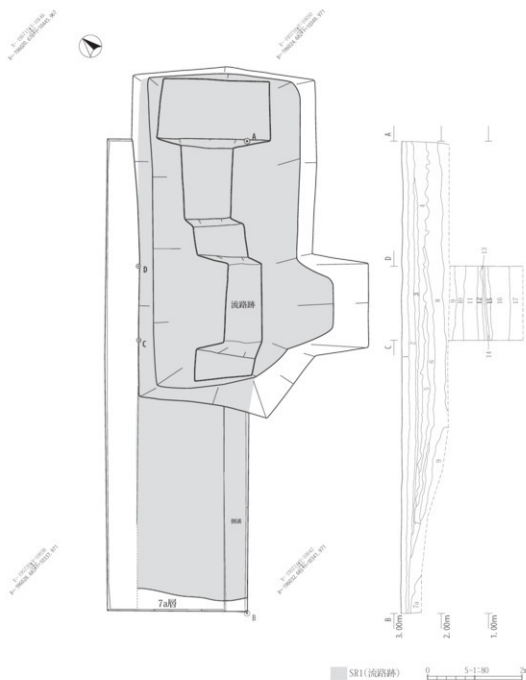
第9図 No.1調査区 平面図・断面図



No.3調査区 SD1 土層註記

層別	土質	土質	出入物・備考
1	10YR3/2 黄褐色	2:粘土	

第10図 No.3調査区 平面図・断面図



No.43 調査区土層註記

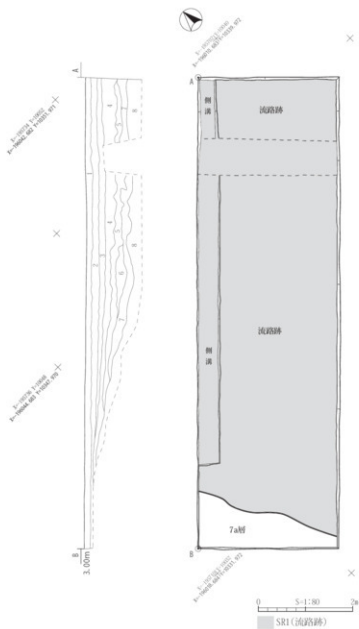
層名	土色	土質	図人物・備考
1	7.5G42之黒色	粘土質シルト	基本層第1層
2	8G1之黒色	粘土質シルト	基本層第2層
3	10G7之灰黄褐色	シルト	赤土層
4	10G3之灰黄褐色	シルト	上層粘土層
5	7.5G42之黒褐色	シルト	
6	10G3之黒褐色	シルト	河川堆積土(河川)層
7	7.5G42之黒褐色	シルト	植物遺体層
8	7.5G42之黒褐色	シルト	植物遺体層

層名	土色	土質	図人物・備考
9	7.5G41之緑灰色	砂質シルト	植物遺体層
10	10G41之緑灰色	砂質シルト	植物遺体層
11	10G51之緑灰色	砂質シルト	植物遺体層
12	10G51之緑灰色	砂質シルト	植物遺体層
13	2.5G41之オレンジ色	砂質シルト	植物遺体層
14	10G51之緑灰色	砂質シルト	植物遺体層
15	2.5G41之オレンジ色	砂質シルト	植物遺体層
16	2.5G31之オレンジ色	砂質シルト	植物遺体層

第11図 No.43 調査区 平面図・断面図



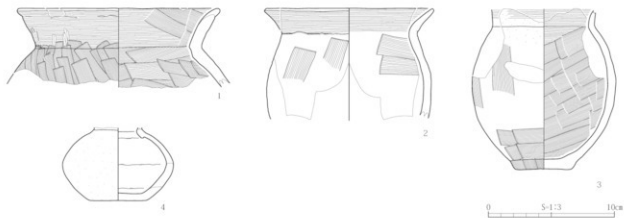
第12図 No.50調査区 平面図・断面図



No. 50・51 調査区土層経記

層名	土質	埋人物・遺物
1	7.09R2/2 黒色	粘土質シルト 基本埋没1層
2	N2/10 黒色	粘土質シルト 基本埋没2層
3	1.09R7/3 灰褐色	シルト 跡分埋没
4	1.09R3/1 灰褐色	シルト 白色粘土層
5	7.09R2/2 黒褐色	シルト
6	1.09R2/2 黒褐色	シルト
7	7.09R2/2 黒褐色	シルト 磁石埋没少量
8	7.09R2/2 黒褐色	シルト 磁物遺体少量

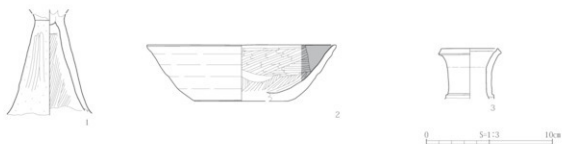
第13図 No.51調査区 平面図・断面図



No.43 調査区 出土遺物観察表

図版番号	種別	器種	出土位置		法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版	登録 番号	
			調査区	遺構	層位	口径	底径						器高
14-1	土師器	甕	43	SR1	-	16.0	-	(6.3)	土師器コナナデ、黒ヘラ土器、黒膠ヘラコナデ	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ		4-1	C-1
14-2	土師器	甕	43	SR1	-	(13.4)	-	(8.9)	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ		4-2	C-2
14-3	土師器	甕	43	SR1	-	-	4.6	(12.8)	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ		4-3	C-3
14-4	土師器	甕	43	SR1	-	(3.7)	4.5	(5.8)	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ	黒土器あり	4-4	C-4

第 14 図 No.43 調査区 出土遺物



No.50 調査区 出土遺物観察表

図版番号	種別	器種	出土位置		法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版	登録 番号	
			調査区	遺構	層位	口径	底径						器高
15-1	土師器	高杯	50	SR1	-	-	-	(8.4)	ヘラコナデ	ナデ		4-5	C-5
15-2	土師器	杯	50	SR1	-	(15.0)	(7.4)	4.5	ヘラコナデ	黒膠ヘラコナデ、内面黒色面漆		4-6	D-1
15-3	須恵器	甕	50	SR1	-	5.0	-	(4.0)	ヘラコナデ	ヘラコナデ		4-7	E-1

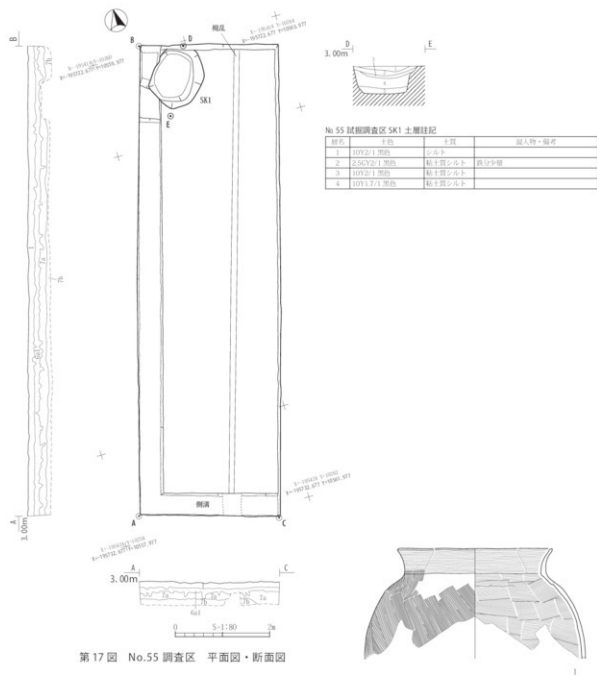
第 15 図 No.50 調査区 出土遺物



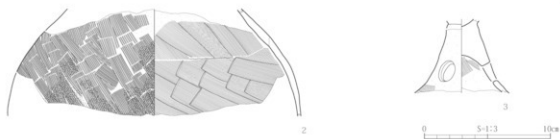
No.51 調査区 出土遺物観察表

図版番号	種別	器種	出土位置		法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版	登録 番号	
			調査区	遺構	層位	口径	底径						器高
16-1	土師器	甕	51	SR1	-	14.8	-	(3.2)	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ	土師器コナナデ、黒膠ヘラコナデ		4-8	C-6
16-2	土師器	甕	51	SR1	-	-	(6.4)	(3.1)	黒膠下層コナナデ、ヘラコナデ	ヘラコナデ		4-9	C-7
16-3	須恵器	甕	51	SR1	-	-	(8.4)	(6.3)	ヘラコナデ	ヘラコナデ	黒陶片あり	4-10	E-2

第 16 図 No.51 調査区 出土遺物



第 17 図 No.55 調査区 平面図・断面図



No.55 調査区 出土遺物観察表

図版番号	種別	器種	出土位置	調査区	遺構	層位	法量 (cm)	口径	底径	器高	内面	内面	備考	写真図版番号	登録番号
18-1	土師器	甕	SS	SK1	-	-	(12.3)	-	(8.8)		黒曜石コブ付、黒曜石コブ	土師器コブ付、黒曜石コブ付		4-11	C-8
18-2	土師器	甕	SS	SK1	-	-	-	-	(8.5)		コブ付、黒曜石	コブ付		4-12	C-9
18-3	土師器	煎釜	SS	SK1	-	-	(5.8)				コブ付	コブ付		4-13	C-10

第 18 図 No.55 調査区 出土遺物

No.94 調査区 (第19～22図)

H-5・I-5グリッドに位置する。確認した基本層は1層、7a層である。検出した遺構はSD1(溝跡)とSR1(流路跡)である。

SR1の規模を確認するため調査区の西側を拡張し調査を行ったところ、調査区外まで続くことが判明した。計測できた範囲でのSR1の幅は27mである。SR1から出土した遺物は515点である(内訳は第2表参照)。

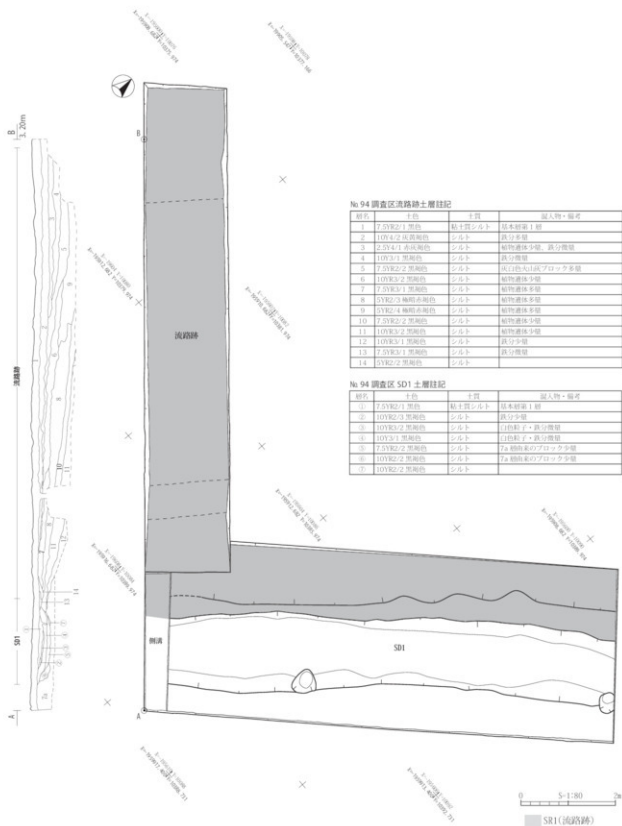
SD1は調査区東部を南北方向に縦断して、調査区外へ延びている。検出長は10m、上端幅140cm～164cm、下端幅80cm～130cm、深さ35cm～43cmで、底面はほぼ平坦である。断面形状は緩やかな弧状を呈し、堆積土は黒褐色シルトを主体とする。遺物は弥生土器32点、石器3点が出土している。

№94調査区で図示した遺物は弥生土器20点(第20図1～20)、土師器6点(第20図21～26)、石器7点(第21図1～5、第22図6・7)である。

弥生土器は、器種に壺、甕、高坏、鉢、深鉢が認められる。壺(9～11、13～15、18)には口縁直下に平行沈線文が施文されるもの(18)、体部に磨消縄文によって文様が施文されるもの(9・11・13・14・15)と体部上端に平行沈線文が施文されるもの(10)がある。9は複線変形工字文である。甕(1～6)は、口縁部が外傾あるいは外反し、体部が膨らむ器形である。口縁部と体部の境界には列点刺突文が施文される1～5と平行沈線文が施文される6がある。高坏は1点(20)あり、脚部に複線山形沈線文が施文されている。鉢(12・19)には、沈線による文様が施文されている。19は、口縁部に平行沈線文、体部に斜行する沈線が連続して施文されている。深鉢(7・8・16・17)には、平行沈線文が施文される7、複線変形工字文が施文される8、主線内地文の磨消幾何学文が施文される16・17がある。16と17は同一個体である。これらは、器形と文様の特徴により、8・9の複線変形工字文など、中期中葉を主体としているが、13・14の磨消幾何学文があり、中期前葉までの時期幅をもつと考えられる。

土師器は器種に壺、甕、鉢が認められる。21は複合口縁の壺口縁部で、外面に突帯が1条めぐる。22は甕である。23は内・外面が赤彩された小型の壺である。24・25は甕、26は鉢である。26は外面にハケメ調整のち口縁部にナデ調整がなされている。これらは、器形の特徴と調整から、古墳時代前期～中期の土器(塩釜式～引田式)と考えられる。

石器は、7点図示した。第21図1・2は有茎石鏃である。1は側縁部の一部を欠損している。器厚が厚く、粗い調整が施されている。石材は流紋岩である。2は基部を欠損しており、側縁部は細かな調整が施されている。石材は瑪瑙である。3は転用された挟入りの磨製石斧である。下側縁が摩滅している。石材は黒色頁岩である。4はピエス・エスキューである。背面に自然面が残っている。剥片の上端部と末端部に剥離がある。石材は珪化凝灰岩である。5は石核である。礫面が残存しているが、礫面側を打点とする剥離は少ない。第22図の6は板状石器である。素材の縁辺を刃部としている。刃部には、光沢が見られる。石材は安山岩である。7は敲石で、被熱による黒色変化が見られる。大部分が欠損している。敲打痕が表面の中央部と下端部にある。



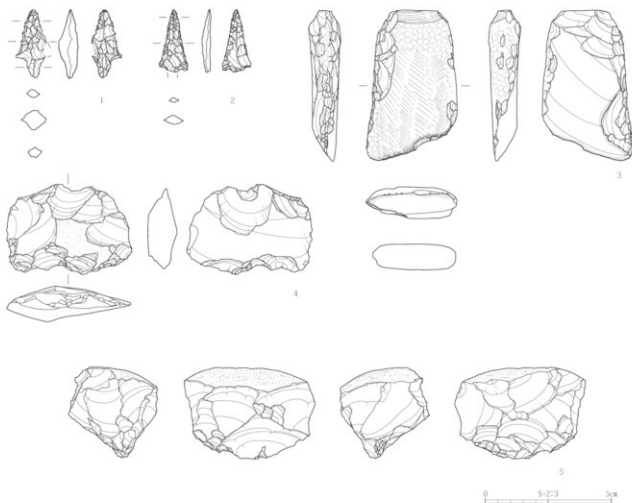
第19図 No.94調査区 平面図・断面図



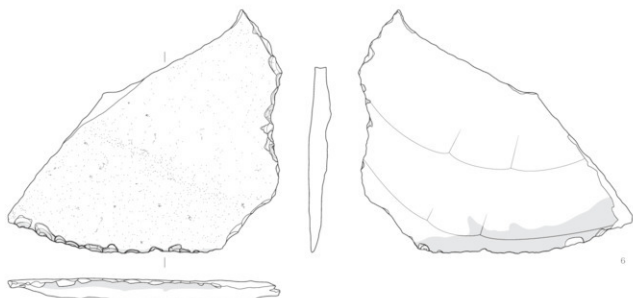
第 20 图 No.94 調査区 出土遺物 (1)

No.94 試掘調査区 出土遺物観察表 (1)

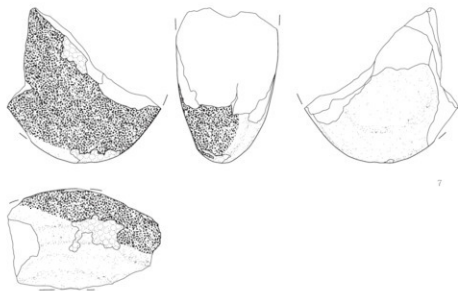
図版 番号	種別	器種	出土位置		法製 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版	登録 番号
			調査区	遺構	層位	口径	口径					
20-1	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(5.0)	土曜窯土コテテ、灰土製成土、燃木土窯	土器ナ		5-1	B-1
20-2	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(4.4)	土曜窯土コテテ、灰土製成土、燃木土窯	甕類		5-2	B-2
20-3	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(4.0)	土曜窯土コテテ、灰土製成土	甕類		5-3	B-3
20-4	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(4.9)	土曜窯土コテテ、灰土製成土、土曜土曜土曜	土器ナ		5-4	B-4
20-5	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(3.1)	灰土製成土	甕類		5-5	B-5
20-6	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(5.1)	平土製成土	甕類		5-6	B-6
20-7	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(2.3)	平土製成土、縦割製成土	土器ナ		5-7	B-7
20-8	弥生土器	深鉢	94	SR1	--	--	(3.7)	縦割製成土コテテ	土器ナ		5-8	B-8
20-9	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(4.2)	縦割製成土コテテ	土器ナ		5-9	B-9
20-10	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(3.3)	縦割製成土、土曜土曜土曜	土器ナ		5-10	B-10
20-11	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(3.4)	平土製成土、縦割製成土	土器ナ		5-11	B-11
20-12	弥生土器	鉢	94	SR1	--	--	(3.0)	土曜土	甕類		5-12	B-12
20-13	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(3.9)	横割製成土	甕類		5-13	B-13
20-14	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(4.3)	横割製成土	甕類		5-14	B-14
20-15	弥生土器	甕	94	SR1	--	--	(2.9)	平土製成土	甕類		5-15	B-15
20-16	弥生土器	深鉢	94	SR1	--	--	(2.4)	土曜土曜土曜土曜土曜土曜	甕類		5-16	B-16
20-17	弥生土器	深鉢	94	SR1	--	--	(2.6)	土曜土曜土曜土曜土曜土曜	甕類		5-17	B-17
20-18	弥生土器	甕	94	SD1	--	--	(5.2)	平土製成土			5-18	B-18
20-19	弥生土器	鉢	94	SD1	--	--	(5.1)	土曜窯土コテテ、土曜土曜土曜土曜	土器ナ		5-19	B-19
20-20	弥生土器	高杯	94	SR1	--	--	(4.3)	横割製成土製成土	甕類		5-20	B-20
20-21	土師器	甕	94	SR1	--	(16.4)	--	土曜窯土コテテ、土曜土曜土曜土曜土曜	土曜土曜土曜	甕類	5-21	C-11
20-22	土師器	甕	94	SR1	--	(15.6)	--	土曜窯土コテテ、土曜土曜土曜土曜土曜	土曜土曜土曜	甕類	5-22	C-12
20-23	土師器	甕	94	SR1	--	(8.4)	--	平土製成土	平土製成土	内面施彩	5-23	C-13
20-24	土師器	甕	94	SR1	--	(16.8)	--	平土製成土	平土製成土		5-24	C-14
20-25	土師器	甕	94	SR1	--	(6.2)	--	平土製成土、横割土曜土曜	平土製成土		5-25	C-15
20-26	土師器	鉢	94	SR1	--	(15.2)	--	土曜窯土コテテ、土曜土曜土曜土曜	土曜窯土コテテ		5-26	C-16



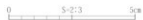
第 21 図 No.94 調査区 出土遺物 (2)



6



7



第 22 図 No.94 調査区 出土物 (3)

No.94 調査区 出土物観察表 (2)

図版 番号	種別	部種	出土位置			法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図版	登録 番号
			調査区	遺構	層位	全長	幅・径	厚さ					
21-1	石器	石鏃	94	SR1	-	2.7	(1.2)	1.3	(1.4)	流紋岩		6-1	K-1
21-2	石器	石鏃	94	SR1	-	(2.5)	1.1	0.4	(0.6)	燧岩		6-2	K-2
21-3	石器	磨製石斧	94	SR1	-	6.0	3.1	1.3	35.5	黒色頁岩	挟入りの磨製石斧の転用品	6-3	K-3
21-4	石器	ピエス・エスキース	94	SD1	-	5.0	3.6	1.4	20.5	珪化凝灰岩		6-4	K-4
21-5	石器	石核	94	SD1	-	5.2	3.6	3.6	66.7	流紋岩		6-5	K-5
22-6	石器	板状石器	94	SR1	-	(10.8)	(9.7)	0.9	(89.4)	安山岩	対面に光沢面	6-6	K-6
22-7	石器	敲石	94	SD1	-	(6.2)	(6.1)	(4.0)	(136.4)	砂岩	焼熱による黒変	6-7	K-7

第2表 試掘・確認調査区出土遺物集計表

調査区番号	検出遺物名	弥生土層	土器類		須恵器	陶磁器	瓦	石器	鏝	計
			縄文土器	弥生土器						
3	--	--	--	--	--	1	--	--	--	1
4	--	--	--	--	1	--	--	--	--	1
5	--	--	1	--	1	2	--	--	--	4
6	--	--	--	--	--	2	--	--	--	2
7	--	--	--	--	--	1	--	--	--	1
8	--	--	--	--	--	2	--	--	--	2
9	--	--	2	--	1	--	--	--	--	3
10	--	--	8	--	1	1	--	--	--	10
	SD1	--	6	--	--	--	--	--	--	6
11	--	--	16	--	--	--	--	--	--	16
13	--	--	--	--	--	--	--	1	--	1
14	--	--	2	--	1	--	--	--	--	3
16	--	--	1	--	--	--	--	--	--	1
18	--	--	--	1	--	--	--	--	--	1
22	--	--	1	--	--	--	--	--	--	1
23	--	--	--	--	--	5	1	--	--	6
24	--	--	1	--	--	--	--	--	--	1
25	--	--	1	--	--	--	--	--	--	1
26	--	--	--	--	1	1	--	--	--	2
28	--	--	2	--	--	--	--	--	--	2
29	--	--	--	--	--	1	--	--	--	1
36	--	--	1	--	--	1	--	--	--	2
	SD1	--	8	--	1	--	--	--	1	10
39	--	--	41	--	--	1	--	--	2	44
41	--	--	2	--	1	--	--	--	3	6
43	SR1	4	433	1	7	2	--	--	5	452
44	--	--	--	--	--	3	--	--	--	3
47	--	--	3	--	1	30	5	--	1	40
50	SR1	--	437	13	1	--	--	--	1	452
51	SR1	--	224	--	8	1	3	--	3	239
54	--	--	2	--	--	--	--	--	--	2
55	SR1	--	135	--	--	--	--	--	2	142
56	--	--	6	--	--	--	--	--	--	6
61	--	--	1	--	--	1	--	--	--	2
90	--	--	68	--	2	--	--	--	--	70
	SR1	30	462	--	--	--	4	19	--	215
94	SD1	32	--	--	--	--	--	3	5	40

第3節 小結

- ・ 試掘・確認調査は、試掘調査94箇所、確認調査3箇所、計97箇所で行った。調査面積は2,867㎡である。
- ・ 第1次調査では、3a層水田跡（古代～中世）、4a層水田跡（古墳時代前期）、6a1層水田跡（弥生時代中期中葉）、6a2層（弥生時代中期中葉以前）の4時期の水田跡が検出されていた。今回の調査では、6a1層水田跡の広がりや52箇所を確認され、水田域の南端が明らかになった。また、この水田跡は18箇所で津波堆積物：5b層に覆われた状態で検出された。他の水田跡に関しては、3a層（古代～中世）を42箇所、4a層（古墳時代前期）を1箇所、6a2層を2箇所を確認した。これらのことから、水田跡の広がりをもとに畝形遺跡の範囲拡大を行った。
- ・ 事業地南西部の調査区：№39・43・44・50・51・94で、流路跡が検出され、№94調査区では、弥生時代中期と古代前期・中期の遺物が出土した。その中には挟入りの磨製石斧の転用品が1点含まれている。
- ・ 下層調査は、2箇所で行われ、№12調査区で7層から14層を確認したが、遺構、遺物は検出されなかった。

第3章 沓形遺跡 第2次発掘調査

第1節 調査概要

沓形遺跡第2次調査は平成22年8月下旬より12月下旬まで行った。調査面積は2,295㎡である。検出した遺構は、基本層5b層上面の溝跡9条、土坑2基、性格不明遺構3基と、6a1層水田跡である。6a1層水田跡では、上面で畦畔38条、溝跡2条、性格不明遺構1基を、下面で溝跡3条を確認した。出土遺物は基本層2層より須恵器1点、6a1層より弥生土器1点が出土した。

第2節 5b層上面検出遺構

1. 溝跡

SD1 溝跡 (第23図)

調査区A区-1西側に位置する。北西から南東方向に延びる溝跡である。検出長は5.48m、上端幅48cm～138cm、下端幅28cm～93cmである。深さは13cm～22cmで、底面に細かな凹凸がみられ、断面形は逆台形を呈する。堆積土は植物遺存体を含む黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD2 溝跡 (第23図)

調査区A区-1西側に位置する。北西から南東方向に延びる溝跡である。検出長は5.52m、上端幅74cm～180cm、下端幅21cm～146cmである。深さは12cm～19cmで、底面に細かな凹凸がみられ、断面形は逆台形を呈する。堆積土は植物遺存体を含む黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD3 溝跡 (第28図)

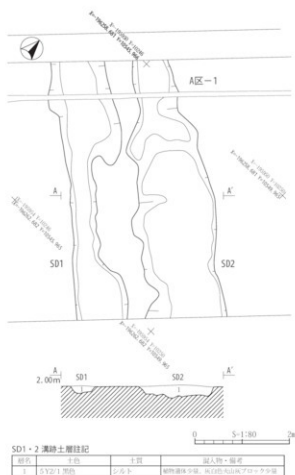
調査区B区-2・4北側に位置する。南北方向の溝跡である。検出長は6.60m、上端幅86cm～140cm、下端幅36cm～60cmである。深さは22cm～27cmで、底面はほぼ平坦である。断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD4 溝跡 (第28図)

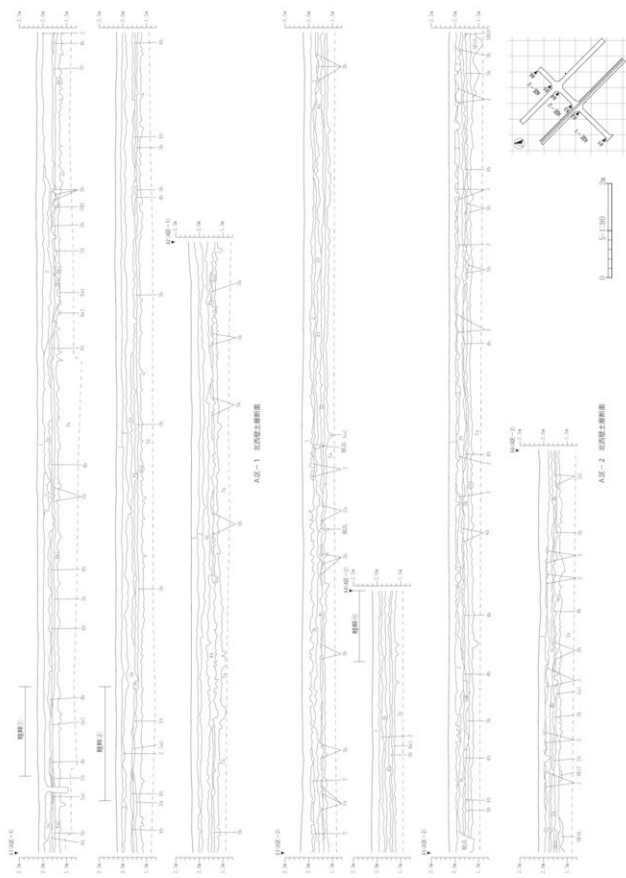
調査区A区-2中央部に位置する。南北方向の溝跡である。遺構北側は西方向に曲がっている。検出長は4.06m、上端幅26cm～62cm、下端幅12cm～38cmである。深さは8cm～14cmで、底面に細かな凹凸がみられる。断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD5 溝跡 (第28図)

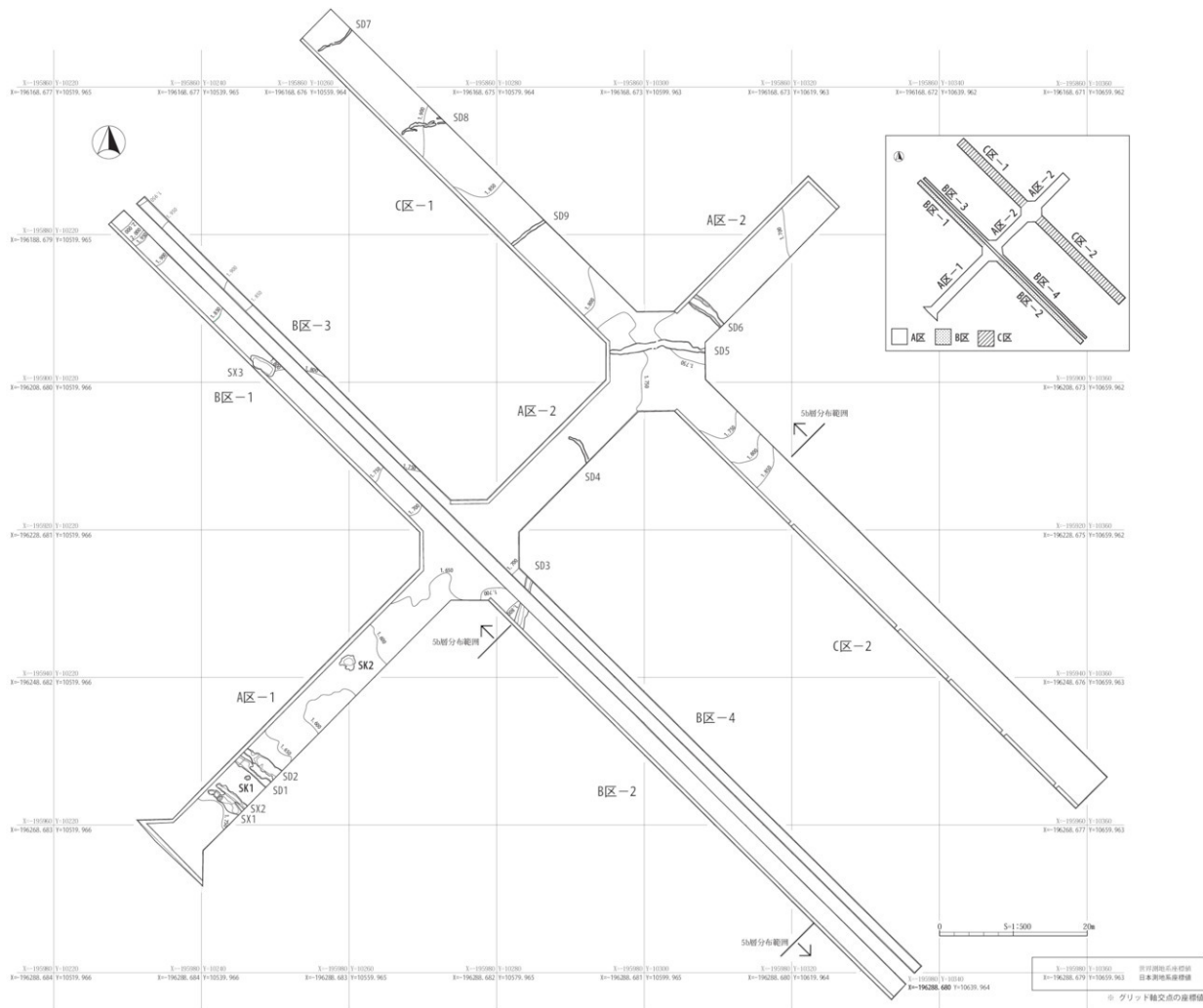
調査区A区-2、C区-1・2交差部に位置する。東西方向の溝跡である。検出長は12.95m、上端幅38cm～122cm、下端幅10cm～110cmである。深さは2cm～6cmで、底面はほぼ平坦である。断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。



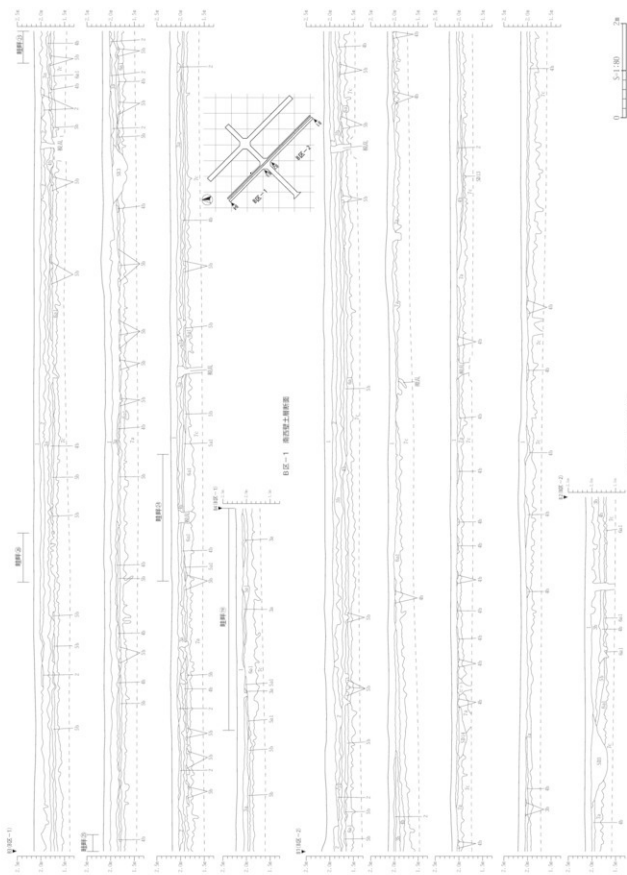
第23図 SD1・2 溝跡 平面図・断面図



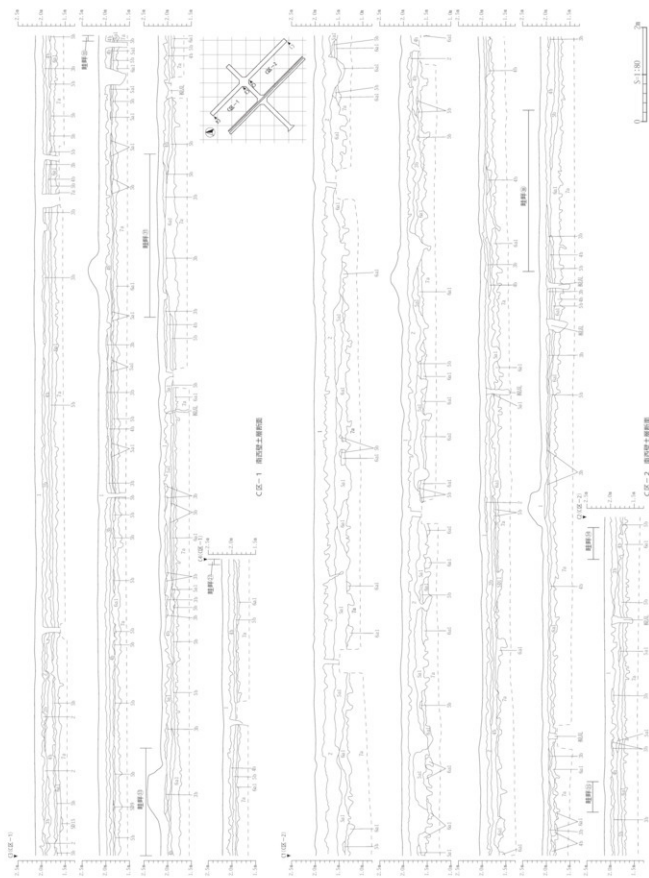
第 24 图 A 区北西线 土质剖面图

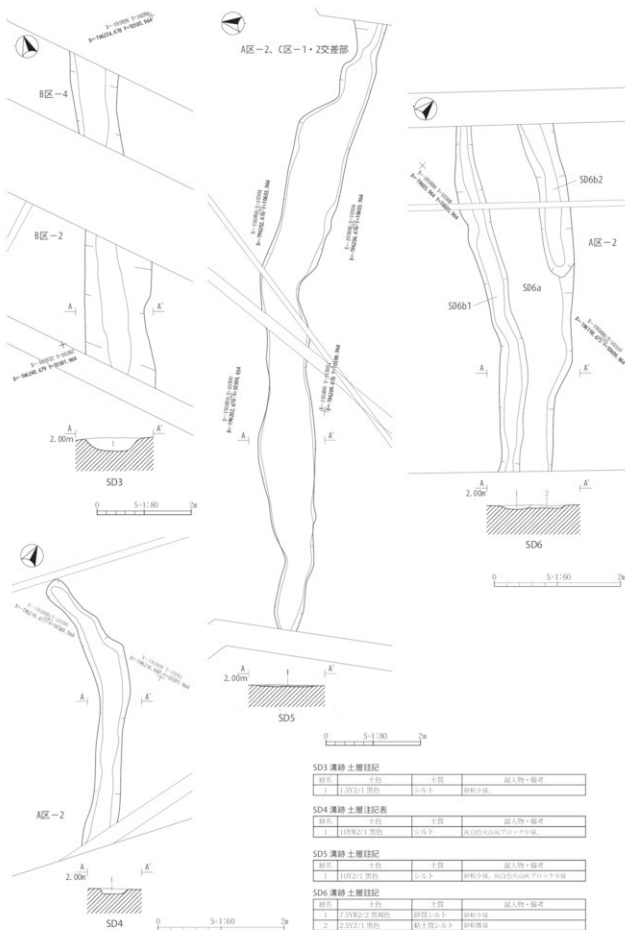


第 25 図 5b 層上面検出遺構 全体図



第 26 图 B 区西墙 土层剖面图





第28図 SD3～6溝跡 平面図・断面図

SD6 溝跡 (第28図)

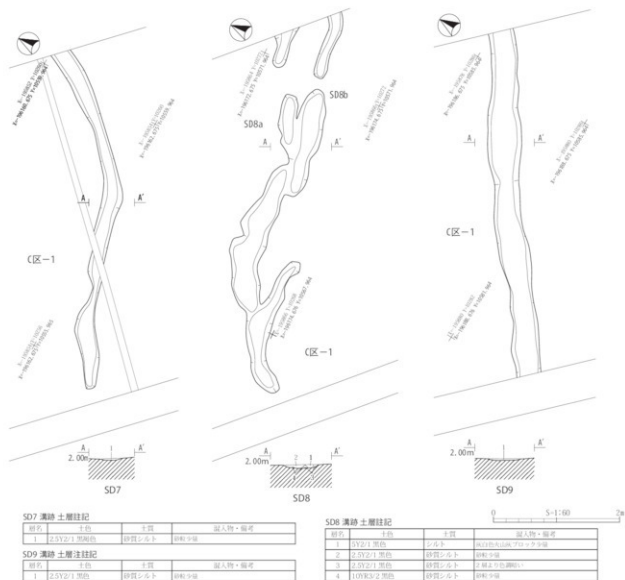
調査区A区-2中央部に位置する。北西から南東方向の溝跡である。両端ともに、溝状のやや深い掘り込みを伴う。この部分は時期の異なる遺構の可能性があり、「SD6b」とし、平坦な中央部を「SD6a」とする。主体の検出長は5.52m、上端幅82cm～176cmである。底面はほぼ平坦で断面形は皿状を呈する。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。SD6b1は検出長5.52m、上端幅23cm～46cm、下端幅12cm～25cmである。深さ3cm～10cmで、底面はほぼ平坦で、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒褐色砂質シルトを主体とする。SD6b2は検出長2.46m、上端幅45cm～55cm、下端幅15cm～27cmである。深さ2cm～5cmで、底面は平坦で断面形は皿状を呈する。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。いずれからも、遺物は出土していない。

SD7 溝跡 (第29図)

調査区C区-1北側に位置する。南西から北東方向の溝跡である。検出長は5.38m、上端幅18cm～32cm、下端幅11cm～25cmである。深さ1cm～4cmで、底面は平坦で、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒褐色砂質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD8 溝跡 (第29図)

調査区C区-1北側に位置する。東西方向の溝跡である。本遺構は、2条の溝跡が近接して検出されたが、SD8a、SD8bとした。双方の堆積土に違いはなく、同時期のものと考えられる。検出長は5.90m、SD8aは上端



第29図 SD7～9 溝跡 平面図・断面図

幅 18cm ~ 54cm、下端幅 8cm ~ 36cm、深さ 1cm ~ 8cm、SD8b は上端幅 15cm ~ 45cm、下端幅 15cm ~ 25cm、深さ 1cm ~ 8cm である。底面に凹凸がみられ、途切れる箇所がある。断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色シルト、黒色砂質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

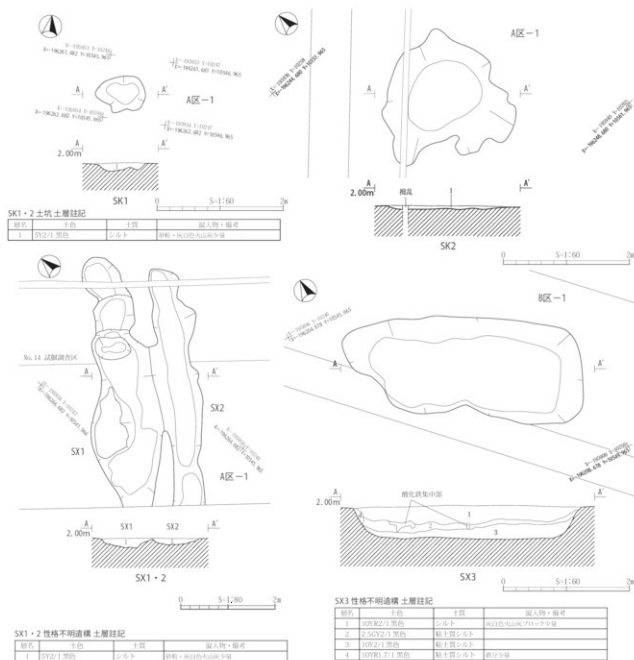
SD9 溝跡 (第 29 図)

調査区 C 区 - 1 南側に位置する。南西から北東方向に延びる溝跡である。検出長は 5.47m、上端幅 34cm ~ 54cm、下端幅 18cm ~ 40cm である。深さ 1cm ~ 8cm で、底面に僅かな凹凸がみられ、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色砂質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

2. 土坑

SK1 土坑 (第 30 図)

調査区 A 区 - 1 南側に位置する。長軸 0.81m、短軸 0.56m の楕円形を呈する。深さは 6cm で、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面に凹凸がみられる。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。



第 30 図 SK1・2 土坑、SK1 ~ 3 性格不明遺構 平面図・断面図

SK2 土坑 (第30図)

調査区A区-1北側に位置する。長軸2.08m、短軸1.95mの不整形を呈する。深さは3cmで、断面形は皿状を呈し、底面に凹凸がみられる。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

3. 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構 (第30図)

調査区A区-1南側に位置し、北側のSX2と近接する。北西から南東方向に延びる溝状の遺構である。検出長は5.30m、上端幅58cm～155cm、下端幅28cm～131cmである。深さ7cm～32cmで、底面はほぼ平坦で、全体としては断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SX2 性格不明遺構 (第30図)

調査区A区-1南側に位置し、南側のSX1と近接する。北西から南東方向に延びる溝状の遺構である。検出長は5.04m、上端幅52cm～93cm、下端幅32cm～49cmである。深さ4cm～16cmで、底面はほぼ平坦で、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SX3 性格不明遺構 (第30図)

調査区B区-1中央部に位置する。長軸5.04m、短軸1.60mの方形を呈する。深さは54cmで、底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。堆積土は黒色シルト、黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

第3節 6a1 層水田跡

1. 概要

水田耕作土である基本層6a1層は、B区-2・4の一部を除いて調査区のほぼ全域に分布している。この水田跡の時期は、第1次調査の成果から弥生時代中期中葉と判明している。

第2次調査区は区画整理事業地内の道路予定地にあたり、細長い形態であったため、水田の構造を捉えにくく、水田区画の面積もほとんどが不明であった。そのため、本節では水田跡の検出状況の記述を調査区ごとに行った。

2. 水田跡の検出状況

(1) A区 (第31図、第3・4表)

水田面の標高は1.601m～1.782mである。地形面の勾配は0.34～0.39で、A区-1では南西に高く、北東に低い。A区-2では北東に高く、南西に低い。畦群は17条検出され、大畦群5条と小畦群12条に分けられる。大畦群は上端幅0.7m～3.2m、下端幅0.9m～3.5m、水田面からの比高2.2cm～3.7cmである。小畦群は上端幅0.1m～0.9m、下端幅0.2m～0.9m、水田面からの比高2.0cm～7.6cmである。

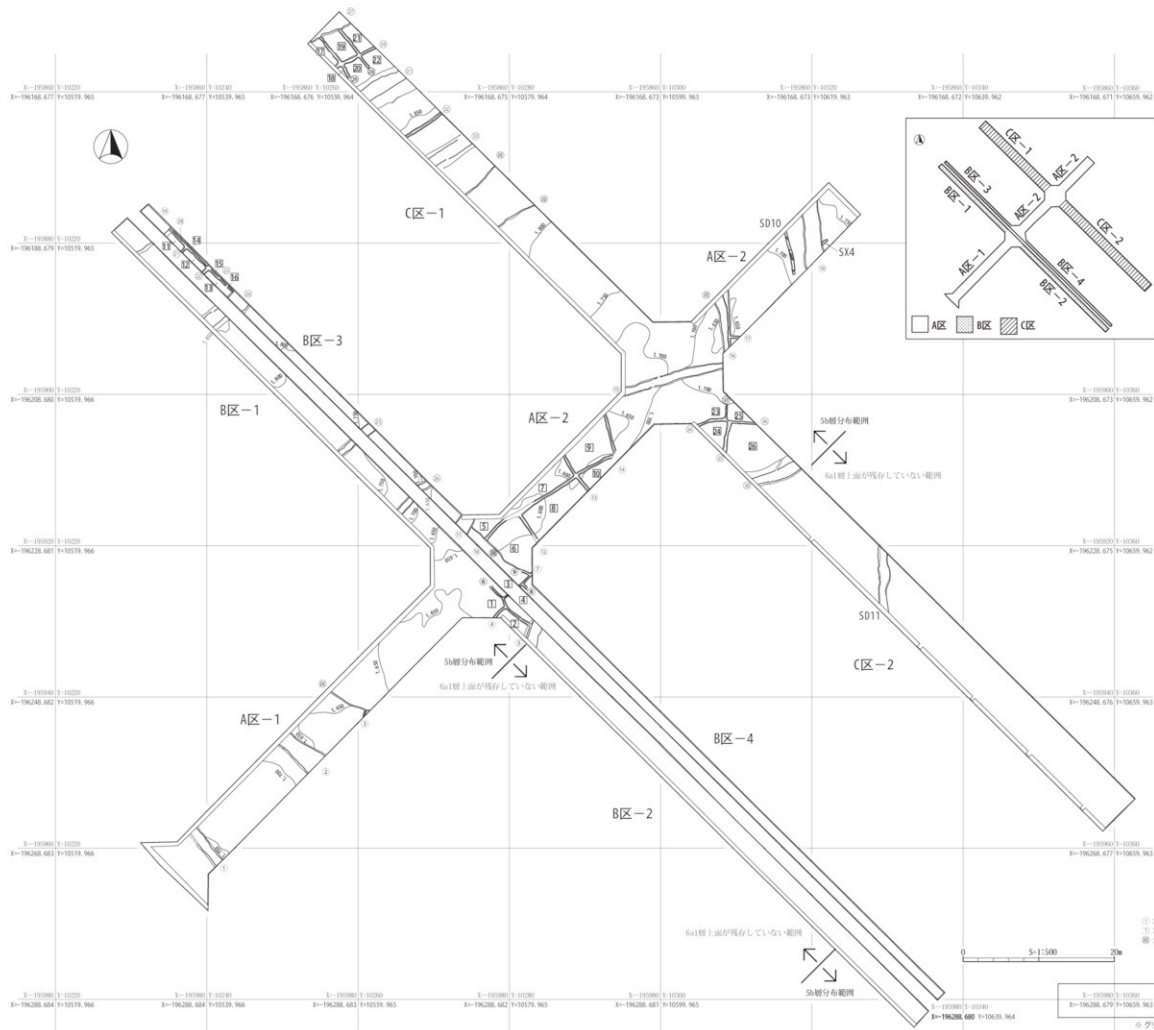
水田区画はA区-1で4区画、A区-2で6区画、計10区画検出された。面積が判明している区画はない。また、段差が3箇所検出された。

(2) B区 (第31図、第3・4表)

水田面の標高は1.306m～1.970mである。地形面の勾配は0.38で、B区-1では北西に高く、南東に低い。畦群は10条検出され、大畦群4条と小畦群6条に分けられる。大畦群は上端幅0.7m～4.4m、下端幅1.0m～4.8m、水田面からの比高2.0cm～4.2cmである。小畦群は上端幅0.1m～0.5m、下端幅0.2m

第3表 6a1層水田跡水田区画計測表

区画番号	地区	長さ (m)	幅 (m)	面積 (㎡)	備考
①	A区-1	0.33	0.21	—	
②	A区-1・B区-2	4.4	1.4	—	
③	A区-1・2	4.4	1.5	—	
④	A区-1・2	4.6	3.1	—	
⑤	A区-2	0.37	2.5	—	
⑥	A区-2	7.3	5.4	—	
⑦	A区-2	0.62	0.27	—	
⑧	A区-2	8.6	1.25	—	
⑨	A区-2	0.6	0.09	—	
⑩	A区-2	0.7	1.2	—	
⑪	B区-3	3.2	0.8	—	
⑫	B区-3	3.5	0.7	—	
⑬	B区-3	4.1	0.8	—	
⑭	B区-3	6.4	0.1	—	
⑮	B区-3	1.3	0.1	—	
⑯	B区-3	2.4	0.1	—	
⑰	CR-1	4.3	0.7	—	
⑱	CR-1	12.0	0.2	—	
⑲	CR-1	4.2	2.2	9.1	
⑳	CR-1	2.5	1.8	7.8	
㉑	CR-1	4.2	0.0	—	
㉒	CR-1	0.4	0.8	—	
㉓	CR-2	0.9	1.8	—	
㉔	CR-2	0.7	0.7	—	
㉕	CR-2	0.5	0.0	—	
㉖	CR-2	0.1	0.2	—	



第31図 6a1層水田跡・6a1層上面核出遺構 全体図

～0.6m、水田面からの比高1.5cm～3.2cmである。

水田区画はB区-3で6区画検出された。面積が判明している区画はない。

(3) C区 (第31図、第3・4表)

水田面の標高は1.629m～1.954mである。地形面の勾配は0.44～0.49で、北西に高く、南東に低い。畦畔は12条検出され、大畦畔4条と小畦畔8条に分けられる。大畦畔は上端幅1.0m～2.0m、下端幅2.0m～4.4m、水田面からの比高2.4cm～27.9cmである。小畦畔は上端幅0.1m～0.4m、下端幅0.2m～0.6m、水田面からの比高1.3cm～5.5cmである。

水田区画はC区-1で6区画、C区-2で4区画、計10区画検出された。面積が判明している水田区画は、区画19で9.1㎡、区画20で7.8㎡である。また、段差が2箇所検出された。

第4表 6a1層水田跡畦畔計測表

№	調査区	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高 (cm)	備考
1	A区-1	N-41°-W	(5.57)	96～125	153～160	3.7	大畦畔
2	A区-1	N-49°-W	(5.48)	189～315	228～347	3.2	大畦畔
3	A区-1	N-9°-35°-E	(1.05)	11～15	20～30	2.3	
4	A区-1	N-39°-56°-E	(1.97)	19～31	37～41	3.0	
5	B区-2	N-35°-E	(2.50)	—	—	3.2	
6	A区-1・B区-2	N-16°-61°-W	(8.93)	11～34	27～54	3.5	
7	A区-2	N-54°-E	(2.52)	15～27	27～34	4.2	
8	A区-2	N-44°-W	(0.94)	20～24	33～36	2.0	
9	A区-2	N-66°-W	(2.00)	22～28	31～35	2.6	
10	A区-2	N-43°-59°-E	(21.26)	16～33	36～56	2.8	
11	A区-2	N-32°-E	(2.32)	152～196	197～209	2.5	大畦畔
12	A区-2	N-34°-W	(3.99)	22～34	39～49	5.5	
13	A区-2	N-27°-39°-W	(5.67)	20～29	39～48	7.6	
14	A区-2	N-15°-W	(5.18)	16～27	33～47	6.2	
15	A区-2	N-75°-E	(13.40)	66～110	89～135	3.6	大畦畔
16	A区-2	N-4°-W	(7.22)	15～88	33～105	3.0	
17	A区-2	N-87°-W	(1.19)	21～30	30～39	3.0	
18	A区-2	N-4°-W	(7.21)	207～309	228～342	2.2	大畦畔
19	B区-3	N-48°-E	(5.64)	(440)	(479)	3.2	大畦畔
20	B区-3	N-45°-W	(11.11)	14～35	27～45	2.3	
21	B区-3	N-43°-E	(0.69)	19～23	37～43	2.2	
22	B区-3	N-45°-E	(1.20)	34～54	49～58	3.2	
23	B区-3	N-48°-E	(0.18)	12～27	23～40	1.5	
24	B区-1・B区-2	N-54°-E	(5.50)	155～270	259～315	4.2	大畦畔
25	B区-1・B区-2	N-49°-E	(5.48)	82～119	117～141	2.0	大畦畔
26	B区-1・B区-2	N-44°-E	(5.41)	72～76	102～118	2.6	大畦畔
27	C区-1	N-59°-E	(5.83)	(201)	(215)	27.9	大畦畔
28	C区-1	N-37°-W	6.36	19～39	39～46	1.3	
29	C区-1	N-36°-W	(6.62)	10～35	27～52	1.6	
30	C区-1	N-51°-60°-E	(5.75)	20～44	34～63	2.3	
31	C区-1	N-59°-E	(5.59)	166～188	308～435	5.6	大畦畔
32	C区-1	N-57°-E	(5.59)	19～32	40～53	2.1	
33	C区-1	N-56°-E	(5.56)	133～157	234～267	2.4	大畦畔
34	C区-2	N-68°-89°-E	(3.93)	18～42	33～54	3.7	
35	C区-2	N-9°-E	(3.89)	26～44	37～57	5.5	
36	C区-2	N-84°-W	(3.69)	20～28	25～37	2.6	
37	C区-2	N-7°-E	(1.89)	9～12	22～28	3.2	
38	C区-2	N-65°-E	(5.97)	96～148	203～267	5.0	大畦畔

(4) 6a1層出土遺物 (第32図)

弥生土器が1点出土した。器種は蓋である。



0 5-1:3 10cm

第2次調査 6a1層出土遺物観察表

図版番号	種類	器種	出土位置				法量 (cm)	外面	内面	備考	写真図版番号
			調査区	遺構	層位	口径					
32-1	弥生土器	蓋	C区	-	6a1層	30.0	-	13.0	1.8cm×2.4cm		12-2 5a-21

第32図 6a1層 出土遺物

3.6a1 層下面検出遺構

調査区A区-2東側で、溝跡3条が検出された。これらは、堆積土が単層で、6a1層と類似することから6a1層水田跡の耕作によって形成された遺構と考えられる。

SD16 溝跡 (第34図)

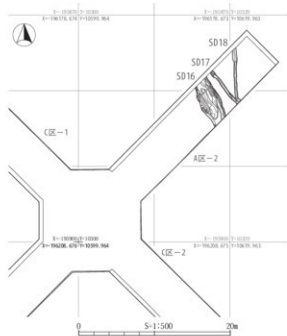
北西から南東方向の溝状の遺構である。検出長は5.79m、上端幅188cm～288cm、下端幅171cm～243cm、深さ1cm～14cmで、底面に顕著な凹凸がみられ、断面形は不定形を呈する。堆積土は黒褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は出土していない。

SD17 溝跡 (第34図)

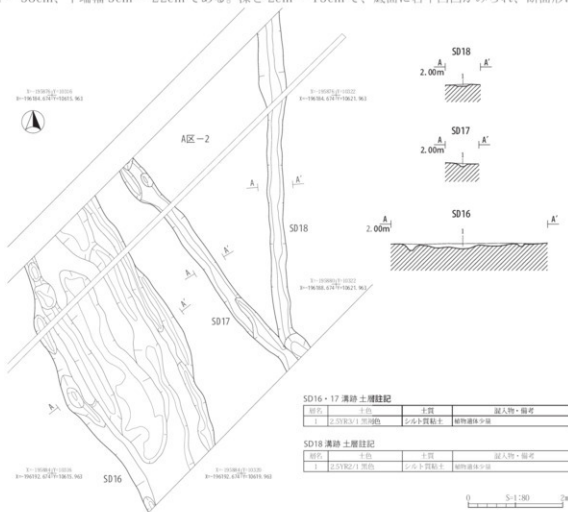
北西から南東方向に延びる溝状の遺構である。遺構南東端でSD18と重複し、本遺構が古い。検出長は5.53m、上端幅29cm～51cm、下端幅5cm～36cmである。深さ2cm～7cmで、底面に凹凸がみられ、断面形は逆台形を呈する。堆積土は黒褐色シルト質粘土を主体とする。遺物は出土していない。

SD18 溝跡 (第34図)

南北方向に延びる溝状の遺構である。南端でSD17と重複し、本遺構が新しい。検出長は7.33m、上端幅29cm～58cm、下端幅5cm～22cmである。深さ2cm～15cmで、底面に若干凹凸がみられ、断面形は緩や



第33図 6a1層下面検出遺構 全体図



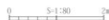
第34図 SD16～18溝跡 平面図・断面図

SD16・17溝跡土層註記

層名	土質	土層	説人物・備考
1	2.05K2/1 黒褐色	シルト質粘土	植物遺体少量

SD18溝跡土層註記

層名	土質	土層	説人物・備考
1	2.05K2/1 黒褐色	シルト質粘土	植物遺体少量



かな弧状を呈する。堆積土は黒色シルト質粘土を主体とする。遺物は出土していない。

4.6a1 層上面検出遺構

(1) 溝跡

SD10 溝跡 (第35図)

調査区A区-2北東部に位置する。南北方向に延びる溝状の遺構である。検出長は7.75m、上端幅98cm～155cm、下端幅76cm～137cmである。深さ1cm～7cmで、底面に細かな凹凸がみられ、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は基本層5b層の砂を主体とする。遺物は出土していない。

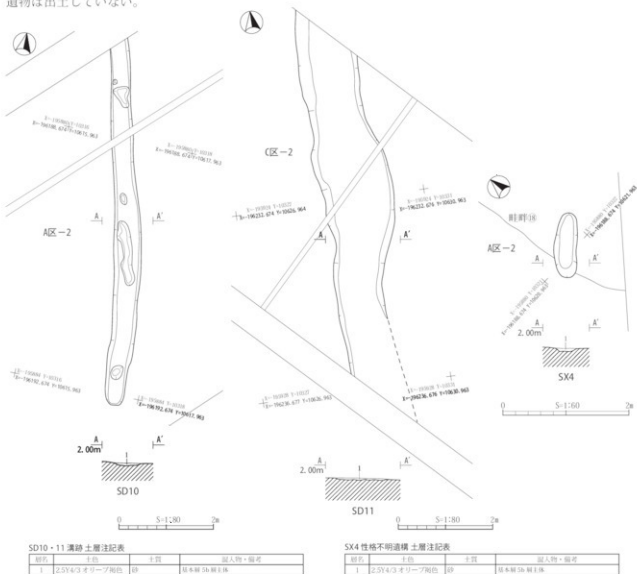
SD11 溝跡 (第35図)

調査区C区-2中央部に位置する。南北方向に延びる溝跡である。検出長は7.75m、上端幅98cm～155cm、下端幅76cm～137cmである。深さ1cm～7cmで、底面に細かな凹凸がみられ、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は基本層5b層の砂を主体とする。遺物は出土していない。

(2) 性格不明遺構

SX4 性格不明遺構 (第35図)

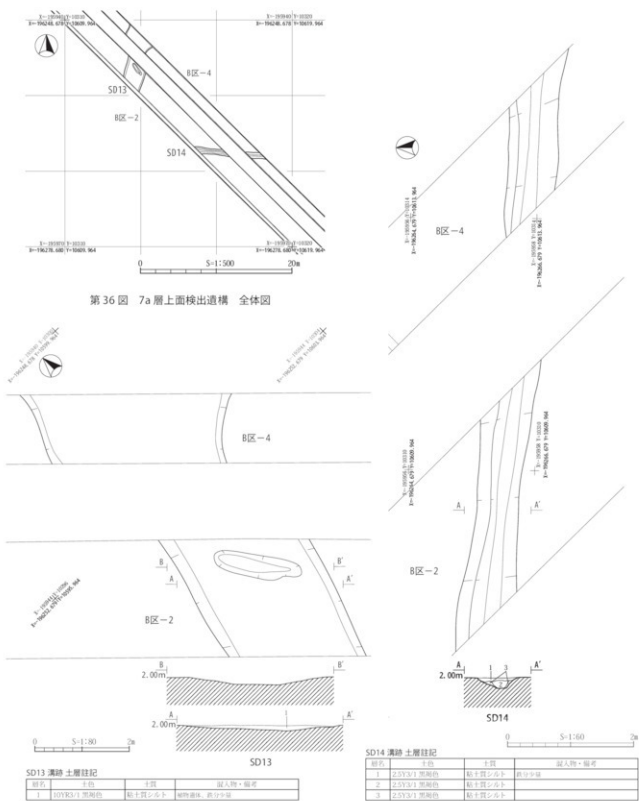
調査区A区-2東側に位置し、畦畔⑧の南東辺に接する。長軸1.02m、短軸0.36mの楕円形を呈する。深さは6cmで、底面に若干の凹凸がみられ、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は基本層5b層の砂を主体とする。遺物は出土していない。



第35図 SD10・11 溝跡、SX4 性格不明遺構 平面図・断面図

第4節 7a層上面検出遺構

B区-2・4中央部で溝跡が2条検出された。ここでは、1層直下に基本層7a層が広がり、上位の層の残存状況が良好でなかった。したがって7a層上面で検出された遺構は、他の地区での2層～6層上面で検出された遺構より必ずしも古いとは限らないが、7a層上面検出遺構として報告する。



第37図 SD13・14 溝跡 平面図・断面図

溝跡

SD13 溝跡 (第 37 図)

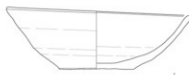
調査区 B 区-2・4 中央部に位置する。南北方向に延びる溝跡である。検出長は 6.77m、上端幅 285cm ~ 446cm、下端幅 248cm ~ 403cm、深さ 2cm ~ 5cm である。底面に僅かな凹凸と深さ 15cm 程の楕円状の落ち込みが一箇所みられ、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD14 溝跡 (第 37 図)

調査区 B 区-2・4 中央部に位置する。東西方向に延びる溝跡である。検出長は 8.58m、上端幅 68cm ~ 88cm、下端幅 14cm ~ 24cm、深さ 18cm ~ 22cm である。底面は丸みを帯び、僅かな凹凸がみられる。断面形は緩やかな弧状で、部分的に漏斗状を呈する。堆積土は黒褐色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

第 5 節 その他の出土遺物

基本層 2 層から、須恵器の環が出土している。



その他の出土遺物観察表

図録番号	種別	資料	出土位置		法量 (cm)			外面	内面	備考	写真図版	登録番号
			調査区	遺構	層位	口径	底径					
38-1	須恵器	環	A 区	-	2 層	(14.6)	5.0	5.0	コケロコケ	コケロコケ	昭和三十九年	12-1 E-3

第 38 図 その他の出土遺物

第 6 節 小結

- 発掘調査は、平成 22 年 8 月から 12 月まで行った。調査面積は 2,295 m² である。
- 5b 層上面で溝跡 9 条、土坑 2 基、性格不明遺構 3 基が検出された。
- 弥生時代中期中葉の 6a1 層水田跡が検出された。水田耕作土の 6a1 層は、調査区のほぼ全域に広がっているが、その 1/3 ほどは残存状況は良好ではなく、約 2/3 が、基本層 5b 層（津波堆積物）に覆われていた。6a1 層上面の標高は 1.601m ~ 1.782m、勾配は 0.34 ~ 0.39 である。畦畔は 38 条検出された。大畦畔 13 条と小畦畔 25 条である。水田区画は、大畦畔によって大区画を作り、その中に方形、長方形を基調として小区画が作られている。大畦畔に擬似畦畔 B は認められない。大区画個々の平面形、面積を把握するには、調査区が細長いため難しい。水田区画 26 区画を確認した。面積が判明している水田区画は、水田区画 19 の 9.1 m²、水田区画 20 の 7.8 m² である。

第4章 沓形遺跡 第3次発掘調査

第1節 調査概要

沓形遺跡第3次調査は平成23年6月中旬から10月中旬まで行った。調査面積は2,200㎡である。検出した遺構は、基本層5b層上面の溝跡3条、土坑19基と、6a1層水田跡である。6a1層水田跡では、上面で畦畔50条、水田区画を60区画、性格不明遺構5基、ピット1基、下面で溝跡1条を確認した。また、古墳時代前期の水田耕作土：基本層4a層、弥生時代中期中葉以前の水田耕作土：6a2層の分布を確認している。遺物は、基本層5b層中から弥生土器1点、石器1点、性格不明遺構から弥生土器1点が出土している。

第2節 5b層上面検出遺構

1. 溝跡

SD1 溝跡 (第43・44図)

調査区B区中央部に位置する。東西方向の溝跡である。検出長は22.72m、上端幅84cm～122cm、下端幅38cm～56cm、深さ18cm～24cmで、底面はほぼ平坦で、断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒褐色粘質シルトを主体とする。遺物は灰釉陶器1点が出土している。常滑産糞の可能性が考えられる。

SD2 溝跡 (第43図)

調査区B区南側に位置する。南北方向の溝跡である。検出長は12.88m、上端幅42cm～63cm、下端幅は25cm～60cm、深さ20cm～24cmである。断面形は緩やかな弧状を呈する。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SD3 溝跡 (第43図)

調査区B区南側に位置する。東西方向の溝跡である。検出長は7.32m、上端幅38cm～67cm、下端幅22cm～58cm、深さ25cm～30cmである。断面形は逆台形を呈する。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

2. 土坑

SK1 土坑 (第45図)

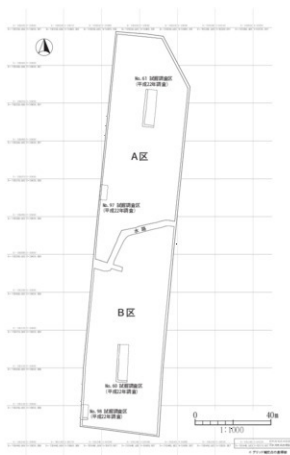
調査区A区の南端に位置する。長軸1.50m、短軸1.34mの楕円形を呈する。深さは7cmで、断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK2 土坑 (第45図)

調査区A区の南側に位置する。長軸1.47m、短軸1.17mの楕円形を呈する。深さは6cmで、断面形は緩やかな弧状を呈する。底面は平坦である。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK3 土坑 (第45図)

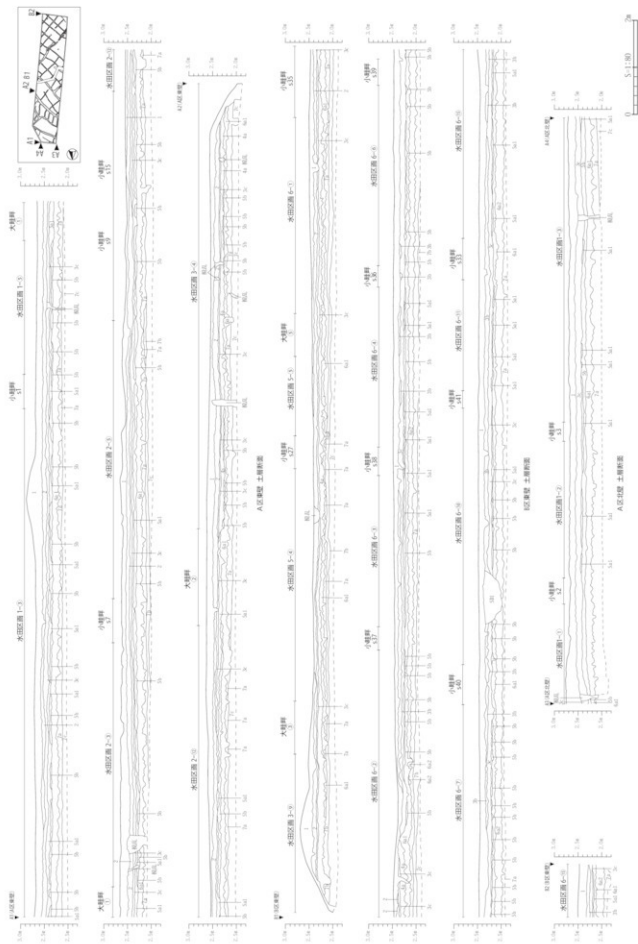
調査区A区南側に位置する。長軸0.92m、短軸



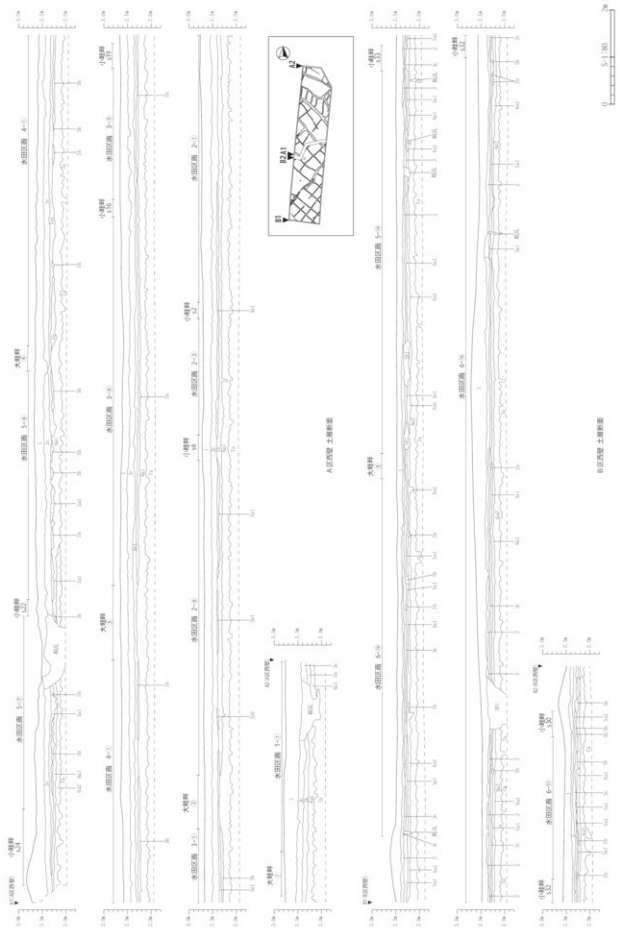
第39図 第3次調査区設定図



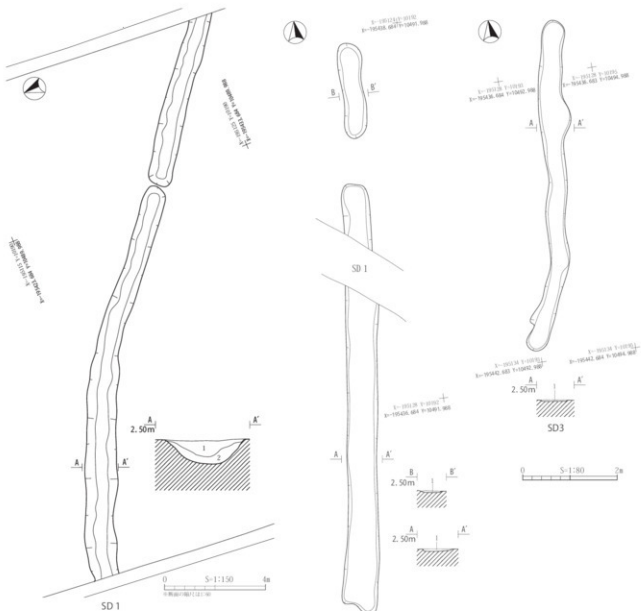
第 40 図 5b 層上面検出遺構 全体図



第41图 A·B区东壁、A区北壁 土壤剖面图



第 42 图 A-B 区西壁 土质剖面图



SD1 溝跡土層柱記

層名	土色	土質	見入物・備考
1	2.5YR3.2 黒褐色	粘土質シルト	
2	2.5YR3.1 黒褐色	粘土質シルト	下層に瓦・銅糸の跡がわずら

SD2・3 溝跡土層柱記

層名	土色	土質	見入物・備考
1	N2.0 黒色	粘土質シルト	粘土質

第 43 図 SD1～3 溝跡 平面図・断面図



SD1 溝跡 出土遺物観察表

図版番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)	内面	内面	備考	写真 図版 番号	登録 番号	
1	陶器	壺	Ⅱ区 SD1	1	---	(2.8)	砂子混	横山正樹・宮内浩一・中野洋子	図版 1	1B-3 1-1

第 44 図 SD1 溝跡 出土遺物

0.81mの楕円形を呈する。深さは3cmで、断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK4 土坑 (第45図)

調査区A区南側に位置する。長軸1.02m、短軸0.93mの楕円形を呈する。深さは5cmで、断面形は逆台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK5 土坑 (第45図)

調査区A区の中央に位置する。長軸1.87m、短軸1.54mの楕円形を呈する。深さは9cmで、断面形は逆台形を呈するが、底面にやや凹凸がみられる。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK6 土坑 (第45図)

調査区A区中央に位置する。長軸0.98m、短軸0.94mの円形を呈する。深さは6cmで、断面形は逆台形を呈するが、底面にやや凹凸がみられる。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK7 土坑 (第45図)

調査区A区中央に位置する。長軸3.50m、短軸1.30mの隅丸方形長方形を呈する。深さは30cm～45cmで、断面形は逆台形を呈するが、底面には顕著な凹凸がみられる。堆積土は7層に分けられ、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK8 土坑 (第45図)

調査区A区北側に位置する。長軸0.70m、短軸0.62mの不整楕円形を呈する。深さは5cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面にやや凹凸がみられる。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK9 土坑 (第45図)

調査区A区南端に位置する。長軸1.07m、短軸1.03mの円形を呈する。深さは21cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面にやや凹凸がみられる。堆積土はオリブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK10 土坑 (第45図)

調査区B区北端に位置する。長軸1.24m、短軸0.81mの楕円形を呈する。深さは20cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面にやや凹凸がみられる。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK11 土坑 (第46図)

調査区B区北端に位置する。長軸1.27m、短軸0.87mの楕円形を呈する。深さは35cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面は丸みを帯びる。堆積土は2層に分けられ、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK12 土坑 (第46図)

調査区B区北側に位置する。長軸1.06m、短軸0.66mの楕円形を呈する。深さは8cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面の西側が僅かに窪む。堆積土は黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK13 土坑 (第46図)

調査区B区北側に位置する。長軸1.58m、短軸0.68mの楕円形を呈する。深さは6cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土はオリブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK14 土坑 (第46図)

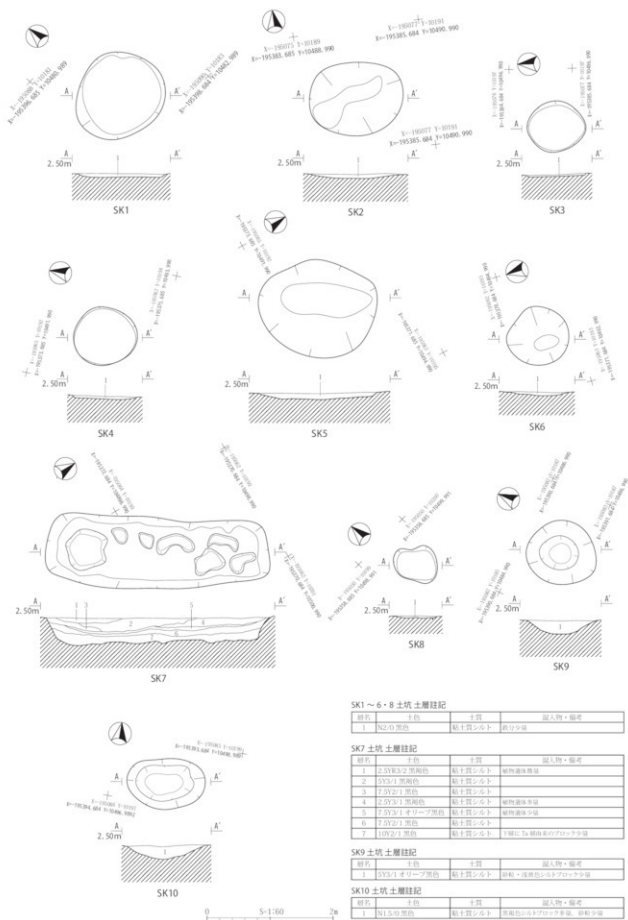
調査区B区北側に位置する。長軸0.95m、短軸0.92mの円形を呈する。深さは7cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面は平坦である。堆積土はオリブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK15 土坑 (第46図)

調査区B区北側に位置する。長軸1.04m、短軸0.98mの不整楕円形を呈する。深さは9cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土はオリブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK16 土坑 (第46図)

調査区B区北側に位置し、西側の調査区外に延びる。長軸0.87m以上、短軸0.99mの不整楕円形と考えられる。



SK1～6・8土層註記

層名	土色	土質	埋人物・層名
1	N2.0 黒色	粘土質シルト	遺分少量

SK7土層註記

層名	土色	土質	埋人物・層名
1	2.5YR3.2 黒褐色	粘土質シルト	埋物遺体少量
2	5Y5/1 黒褐色	粘土質シルト	
3	7.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	埋物遺体少量
4	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	埋物遺体少量
5	7.5Y3/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	埋物遺体少量
6	7.5Y2/1 黒色	粘土質シルト	
7	10Y2/1 黒色	粘土質シルト	1層に2層埋物のアソテ層

SK9土層註記

層名	土色	土質	埋人物・層名
1	5Y5/1 オリーブ黒色	粘土質シルト	磁粒・成層色シルトブロック少量

SK10土層註記

層名	土色	土質	埋人物・層名
1	N1.5 黒褐色	粘土質シルト	成層色シルトブロック少量、磁粒少量

第45図 SK1～10土坑 平面図・断面図

深さは8cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面の中央が僅かに窪む。堆積土はオリブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物は出土していない。

SK17 土坑 (第46図)

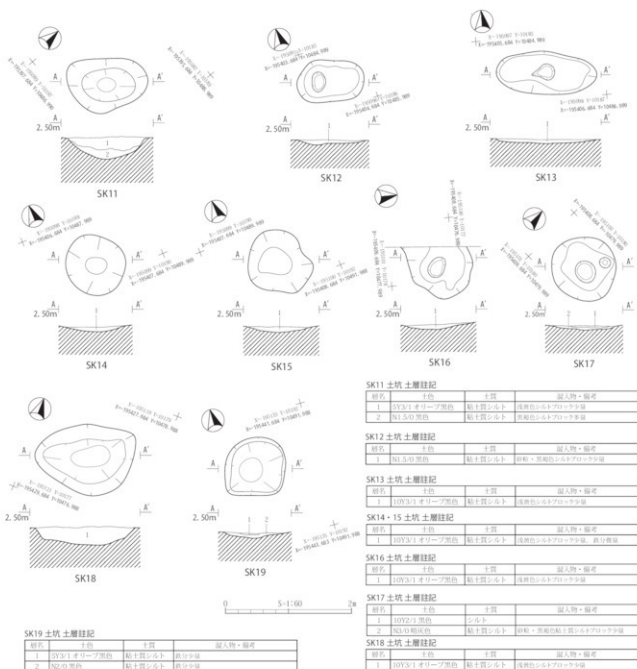
調査区B区北側に位置する。長軸1.02m、短軸1.01mの円形を呈する。深さは7cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面の中央が僅かに窪む。堆積土は2層に分けられ、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SK18 土坑 (第46図)

調査区B区南西部に位置する。長軸1.58m、短軸1.14mの不整形円形を呈する。深さは29cmで、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。堆積土はオリブ黒色粘土質シルトを主体とし、上部に基本層7a層のブロックを少量含む。遺物は出土していない。

SK19 土坑 (第46図)

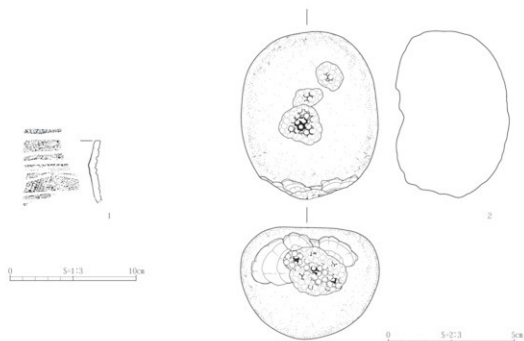
調査区B区南東部に位置する。長軸0.95m、短軸0.92mの不整形円形を呈する。深さは8cmで、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面は平坦である。堆積土は2層に分けられる。遺物は出土していない。



第46図 SK11～19土坑 平面図・断面図

第3節 5b層出土遺物

第47図1は、A区東部より出土した弥生土器で、深鉢の口縁部から体部上半にかけての破片である。口唇は平坦でLR縄文が施される。口縁部はやや内湾気味に外傾する。外面には平行沈線が施され、その間をLR縄文とする磨消縄文となっている。内面には口縁直下に1条の沈線が施文されている。体部上半は外面に、反転部が途切れる流水工字文が施され、下端側へ地文のLR縄文の進入が認められる。時期については、体部の磨消縄文が無文部と地文部の境界が沈線によって画されてはならず、流水工字文が単線で描かれて副線を伴わないことから中期前葉でも後半と考えられる。2は敲石である。敲打痕が楕円礫の表面に3ヶ所、下端部に1ヶ所ある。



5b層 出土物観察表(1)

図版 番号	種別	器種	出土位置		法量 (cm)			外面	内面	備考	写真 図版	登録 番号
			調査区	遺構	層位	口径	底径					
47-1	弥生土器	深鉢	A区	—	5b	—	—	(4.9)	沈線文(山形文)、磨消縄文	1層部1条の沈線	1層LR縄文	18-1B-22

5b層 出土物観察表(2)

図版 番号	種別	器種	出土位置		法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図版	登録 番号
			調査区	遺構	層位	全長	幅・径					
47-2	石器	敲石	B区	—	5b	6.7	5.5	4.4	230.2	90/100	敲打痕4箇所	18-2K-8

第47図 5b層 出土遺物

第4節 6a1層水田跡

1. 調査概要

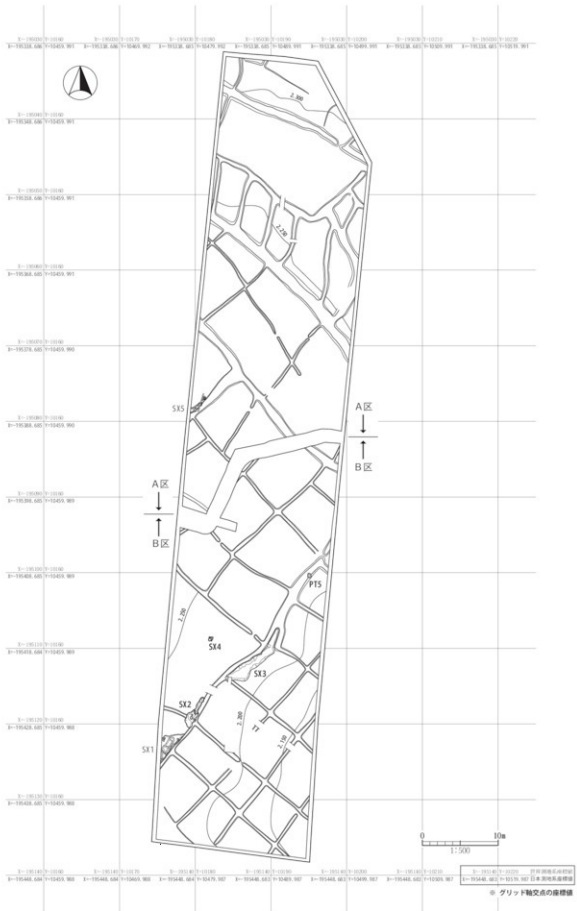
6a1層水田跡は、下端幅0.70m～2.00mの大畦畔6条とその中を区画する下端幅0.30m～0.50mの小畦畔44条が検出され、それらによって区画された水田区画60区画を確認した。水田面の標高は2.114m～2.339mを測り、調査区全体の勾配は約0.17～0.24で、調査区内での標高差は20cmである。

本層で、検出された水田跡は、標高値の分布傾向(第57図 水田面標高分布図参照)と、大畦畔の位置関係から6つの大区画に分けられる。それぞれの大区画に1～6の番号を付し、大区画毎に報告する。

2. 水田跡検出状況

(1) 大区画1 (第49図、第5～7表)

A区北部に位置し、水田面の標高値は2.246m～2.339mを測る。地形面の勾配は約0.28で、北西が高く南



第48図 6a1層水田跡・6a1層上面検出遺構 全体図

東が低い。1条の大畦畔と4条の小畦畔によって区画された5つの水田区画が検出された。また、西側に小区画の痕跡と考えられる段差が検出された。

①大畦畔（第49図、第5表）

大畦畔は1条確認された（大畦畔①）。大畦畔①は等高線に沿う形で、配置されている。この畦畔の北側が大區画1の水田域である。畦畔の上端幅は0.31m～1.01m、下端幅0.60m～1.81mを測り、水田面との比高差は3cm～8cmである。

②小畦畔（第49図、第6表）

小畦畔4条が検出された（s1～s4）。大畦畔①と直交する小畦畔s1が西端に、大畦畔①と平行する形で小畦畔s3が検出され、小畦畔s3と直交する小畦畔s2が確認された。小畦畔の上端幅は0.11m～0.41m、下端幅0.32m～0.66mを測り、水田面との比高差は2cm～3cmである。

第5表 6a1層水田跡大區画1大畦畔計測表

No	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
①	N-64°-W	20.90	57～101	101～181	3～7	

第6表 6a1層水田跡大區画1小畦畔計測表

No	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
s1	N-42°-E	1.17	31～41	60～63	4～8	
s2	N-2°-W-N-22°-E	9.23	16～31	44～65	2～3	
s3	N-28°-E	0.87	22～33	59～66	2～3	
s4	N-60°-W	9.72	-	-	1～3	

③水口（第49図）

畦畔①の東部に、水口が1箇所検出された。

④水田区画（第49図、第7表）

水田区画は5区画検出された。区画1～④を除いて調査区外へ区画が延びているため規模は不明である。また、区画1～④は、他の区画の大きさからすると、その中に複数の区画が存在した可能性がある。

第7表 6a1層水田跡大區画1水田区画計測表

区画No	最高標高 (m)	最低標高 (m)	平均標高 (m)	区画内最大標高差 (cm)	東辺 (cm)	西辺 (cm)	南辺 (cm)	北辺 (cm)	面積 (㎡)	備考
1-①	2.320	2.288	2.313	3.2	381.3	317.8	146.0	176.0	6.3 _田	
1-②	2.319	2.308	2.306	2.1	63.1	43.5	228.3	265.8	0.8 _田	
1-③	2.339	2.282	2.318	5.7	694.0	86.3	1143.7	626.6	24.1 _田	
1-④	2.325	2.246	2.305	7.9	131.3	405.2	1567.1	1791.7	55.1 _田	
1-⑤	2.328	2.300	2.307	2.8	108.9	84.1	182.9	-	0.7 _田	

(2) 大區画2（第49図、第8～10表）

A区北部に位置し、水田面の標高値は2.197m～2.301mを測る。地形面の勾配は約0.17で北が高く、南が低い。

①大畦畔（第49図、第8表）

大畦畔は2条確認された（大畦畔①、②）。大畦畔②は、等高線に沿うように位置している。大畦畔の上端幅は0.39m～1.93m、下端幅0.43m～2.01mを測り、水田面との比高差は1cm～14cmである。

②小畦畔（第49図、第9表）

小畦畔11条が検出された（s5～s15）。大畦畔と直交または平行するように位置する。小畦畔の上端幅は0.11m～1.17m、下端幅0.54m～1.61mを測り、水田面との比高差は1cm～5cmである。

第8表 6a1層水田跡大區画2大畦畔計測表

No	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
②	N-38°-49°-N	25.72	90～193	150～201	1～14	



第 49 図 6a1 層水田跡大区画1～4 平面図

第9表 6a1層水田跡大区画2小畦畔計測表

No	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
s5	N-48°-E	10.07	44~115	70~142	3~5	
s6	N-53°-63°-W	15.55	28~115	57~131	1~3	
s7	N-40°-E	3.57	49~75	77~90	2~3	
s8	N-27°-E	6.18	41~62	67~80	3~4	
s9	N-28°-W	9.23	70~117	112~161	2~5	
s10	N-8°-W	7.80	26~41	43~61	1~2	
s11	N-16°-E	7.70	32~72	54~110	2~3	
s12	N-14°-E	7.42	43~87	72~119	2~4	
s13	N-8°-33°-E	7.90	34~61	60~89	2~4	
s14	N-10°-E	12.22	34~58	58~87	1~3	
s15	N-33°-E	5.20	63~114	92~148	1~4	

②水口 (第49図)

小畦畔s5の北端部で1箇所確認された。水田区画2-②から2-③へ用水を供給するためと考えられる。

③水田区画 (第49図、第10表)

水田区画は12区画検出された。面積は20~40㎡の区画が中心となる。平面形は方形、長方形を基調とするが、やや歪みがみられる区画もある。また、の中には長辺が等高線と直交する区画もある。区画2-①は面積が150㎡を超える水田区画であるが、他の区画の大きさからすると、その中に複数の区画の存在が考えられる。

第10表 6a1層水田跡大区画2水田区画計測表

区画No	最高標高 (m)	最低標高 (m)	平均標高 (m)	区画内最大標高差 (cm)	東辺 (cm)	西辺 (cm)	南辺 (cm)	北辺 (cm)	面積 (㎡)	備考
2-①	2.298	2.277	2.288	2.1	285.8	303.5	—	60.7	0.8以上	
2-②	2.301	2.223	2.275	7.8	988.3	410.0	1498.8	2006.9	<152.2>	
2-③	2.298	2.234	2.277	6.4	395.4	260.7	259.1	—	3.4以上	
2-④	2.293	2.247	2.267	4.6	360.7	274.3	251.0	125.8	5.5	
2-⑤	2.286	2.252	2.271	3.4	592.3	318.6	375.3	76.6	7.8以上	
2-⑥	2.291	2.268	2.276	2.3	591.8	638.0	—	60.3	1.5以上	
2-⑦	2.283	2.235	2.262	4.8	663.4	660.5	280.4	387.6	21.6	
2-⑧	2.269	2.229	2.249	4.0	626.8	637.0	332.2	310.6	21.5	
2-⑨	2.281	2.197	2.252	8.4	608.9	583.4	253.6	256.9	16.5	
2-⑩	2.285	2.241	2.268	4.4	979.6	668.6	402.0	640.6	37.7	
2-⑪	2.281	2.228	2.261	5.3	595.3	964.3	208.8	606.0	22.2	
2-⑫	2.300	2.241	2.280	5.9	515.4	430.8	302.1	—	5.6以上	

①面積の()は測定値

(3) 大区画3 (第49図、第11~13表)

A区中央部から南部に位置し、水田面の標高値は2.152m~2.265mを測る。地形面の勾配は約0.39で北が高く、南が低い。2条の大畦畔と6条の小畦畔によって区画された9つの水田区画を検出した。

①大畦畔 (第49図、第11表)

大畦畔は2条確認された(畦畔②、③)。大畦畔③は等高線に沿う形で位置する。大畦畔の上端幅は0.64m~1.19m、下端幅0.86m~1.45mを測り、水田面との比高差は1cm~3cmである。

②小畦畔 (第49図、第12表)

小畦畔6条が検出された(s16~s20・s25)。大畦畔と直交または平行するように位置する。小畦畔の上端幅は0.09m~0.39m、下端幅0.20m~0.59mを測り、水田面との比高差は1cm~4cmである。

第11表 6a1層水田跡大区画3大畦畔計測表

No	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
③	N-39°-54°-W	26.53	64~119	86~160	1~3	

第12表 6a1層水田跡大区画3小畦畔計測表

No	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
s16	N-48°-E	3.35	17~30	34~59	1~2	
s17	N-48°-E	11.23	11~33	30~53	1~4	
s18	N-39°-E	10.24	16~32	37~49	1~3	
s19	N-40°-E	8.27	15~39	33~55	1~4	
s20	N-33°-E	13.86	9~23	20~47	1~4	
s25	N-28°-E	1.72	23~27	33~42	1~2	

③水口 (第 49 図)

小畦群 s18 で 2 箇所、s20 で 1 箇所合計 3 箇所確認された。

④水田区画 (第 49 図、第 13 表)

水田区画は 9 区画検出された。面積は 30 ～ 50 m 程度の区画が中心である。水田区画の形状は長方形を呈する区画が大部分を占める。

第 13 表 6a1 層水田跡大区画 3 水田区画計測表

区画 No.	最高標高 (m)	最低標高 (m)	平均標高 (m)	区画内最大 標高差 (cm)	東辺 (cm)	西辺 (cm)	南辺 (cm)	北辺 (cm)	面積 (㎡)	備考
3-1	2.255	2.224	2.241	3.1	193.2	188.4	71.5	193.7	2.5 ^①	
3-2	2.248	2.207	2.236	4.1	336.4	211.6	679.8	626.0	17.9	
3-3	2.255	2.152	2.225	10.3	574.6	387.9	1101.7	1011.8	50.1	
3-4	2.260	2.184	2.234	7.6	910.7	597.5	1104.8	584.4	50.6 ^①	
3-5	2.265	2.245	2.254	2.0	59.3	68.1	—	55.6	0.1 ^①	
3-6	2.245	2.170	2.223	7.5	700.6	960.9	41.7	688.1	30.4 ^①	
3-7	2.257	2.167	2.233	9.0	546.9	660.0	1235.6	1131.2	72.1	
3-8	2.251	2.167	2.230	8.4	375.3	547.6	1187.2	1085.4	59.0 ^①	
3-9	2.255	2.254	2.255	0.1	158.5	136.8	42.0	—	0.3 ^①	

①面積値 () は測定値

(4) 大区画 4 (第 49 図、第 14・15 表)

A 区南西部に位置し、水田面の標高値は 2.193m ～ 2.260m を測る。地形面の勾配は約 0.44 で、北西が高く南東が低い。2 条の大畦群によって区画された 1 つの区画を検出した。

①大畦群 (第 49 図、第 14 表)

大畦群③の南側に直交する大畦群④が検出された。この畦群は、比較的規模が大きく、この部分を大区画 4 とした。上端幅は 0.54m ～ 1.92m、下端幅 0.91m ～ 2.18m を測り、水田面との比高差は 2cm ～ 5cm である。

第 14 表 6a1 層水田跡大区画 4 大畦群計測表

No.	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
④	N - 46° - E	9.50	54 ~ 192	91 ~ 218	2 ~ 5	

②水口 (第 49 図)

大区画 4 に伴う水口は検出されなかった。

③区画 (第 49 図、第 15 表)

大区画 4 は西側へ展開すると考えられる区画であるが内容は不明である。

第 15 表 6a1 層水田跡大区画 4 水田区画計測表

区画 No.	最高標高 (m)	最低標高 (m)	平均標高 (m)	区画内最大 標高差 (cm)	東辺 (cm)	西辺 (cm)	南辺 (cm)	北辺 (cm)	面積 (㎡)	備考
4-1	2.260	2.193	2.225	6.7	805.0	1069.2	71.5	648.4	28.6 ^①	

(5) 大区画 5 (第 49・50 図、第 16 ～ 18 表)

A 区南端部から B 区北部に位置し、水田面の標高値は 2.155m ～ 2.281m を測る。地形面の勾配は約 0.19 で北西が高く、南東が低い。3 条の大畦群と 12 条の小畦群によって区画された 14 の水田区画が検出された。

①大畦群 (第 49・50 図、第 11・14・16 表)

大畦群は 3 条確認された (大畦群③、④、⑤)。大畦群⑤は B 区中央部、南西から北西方向に伸びる大畦群である。等高線に沿うように位置している。上端幅は 0.16m ～ 1.58m、下端幅 0.49m ～ 1.75m を測り、水田面との比高差は 2cm ～ 5cm である。

②小畦群 (第 49・50 図、第 17 表)

小畦群 12 条が検出された (s21 ～ s24・s26 ～ s33)。大畦群⑤に直交または平行するように位置する。上端幅は 0.14m ～ 0.57m、下端幅 0.28m ～ 0.67m を測り、水田面との比高差は 1cm ～ 6cm である。

第 16 表 6a1 層水田跡大区画 5 大畦群計測表

No.	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
⑤	N - 37° - E	36.97	16 ~ 158	49 ~ 175	2 ~ 5	



第17表 6a1層水田跡大区画5小畦群計測表

No.	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
s21	N-31°-E	8.85	22-44	36-59	1	
s22	N-56°-E	3.80	27-34	38-52	2-3	
s23	N-42°-W	24.20	17-42	33-52	3-6	
s24	N-58°-W	3.60	—	—	1	
s26	N-46°-E	17.34	28-47	45-62	2-3	
s27	N-49°-W	4.43	23-31	28-42	2-3	
s28	N-40°-E	3.47	20-29	38-45	2-3	
s29	N-45°-60°-W	13.10	14-57	30-47	2-5	
s30	N-60°-E	1.04	29-33	43-47	1-2	
s31	N-37°-E	6.91	21-37	38-62	2-4	
s32	N-49°-W	15.09	23-44	52-67	1-4	
s33	N-69°-W	3.22	22-29	40-51	2-4	

③水口 (第50図)

大畦群⑤・小畦群s23・s29・s32で水口が確認された。

④水田区画 (第50図、第18表)

水田区画は14区画検出された。比較的規模の大きい区画で構成され、面積は35～50㎡の区画が中心である。大畦群⑤と直交または平行する小畦群で区画が構成される。区画5-⑬は面積が100㎡を超えるが、田面の残存状況が良好ではなく、他の区画の大きさからすると、その中に複数の区画が存在した可能性がある。

第18表 6a1層水田跡大区画5水田区画計測表

区画 No.	最高標高 (m)	最低標高 (m)	平均標高 (m)	区画内最大 標高差 (cm)	東辺 (cm)	西辺 (cm)	南辺 (cm)	北辺 (cm)	面積 (㎡)	備考
5-①	2.243	2.176	2.221	6.7	831.5	784.7	569.0	245.6	34.8	
5-②	2.235	2.187	2.217	4.8	731.3	807.1	332.9	601.2	(31.1)	
5-③	2.263	2.203	2.237	6.0	832.9	261.4	616.5	338.1	(53.7)	
5-④	2.256	2.230	2.246	2.6	384.5	250.6	389.6	178.0	8.0以上	
5-⑤	2.253	2.181	2.223	7.2	228.6	497.3	759.9	413.4	34.3以上	
5-⑥	2.248	2.203	2.224	4.5	298.8	58.0	387.8	305.6	5.9以上	
5-⑦	2.252	2.177	2.231	7.5	630.0	340.0	398.9	387.4	33.5以上	
5-⑧	2.255	2.163	2.230	9.2	762.7	120.0	366.3	624.0	39.8以上	
5-⑨	2.252	2.155	2.221	9.7	509.8	780.1	845.9	782.5	55.2	
5-⑩	2.255	2.246	2.259	0.9	64.1	49.7	—	55.3	0.1以上	
5-⑪	2.264	2.193	2.237	7.1	577.4	137.7	525.8	420.6	(41.1)	
5-⑫	2.242	2.183	2.223	5.9	729.2	582.0	937.7	837.6	60.7	
5-⑬	2.281	2.168	2.237	11.3	1333.1	1790.0	331.2	1470.1	123.3以上	SX2, SX4
5-⑭	2.267	2.237	2.253	3.0	678.3	693.1	—	431.3	14.6以上	SX1, SX2

①: 参照図 () : 経緯不明

(6) 大区画6 (第50図、第19～21表)

B区南部に位置し、水田面の標高値は2.114m～2.258mを測る。地形面の勾配は約0.39で北西が高く、南東が低い。2条の大畦群 (大畦群⑤、⑥) と11条の小畦群によって区画された19の水田区画が検出された。

①大畦群 (第50図、第19表)

大畦群は2条確認された (大畦群⑤、⑥)。大畦群⑥は等高線、大畦群⑤と直交するように位置する。畦群幅

第19表 6a1層水田跡大区画6大畦群計測表

No.	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
⑤	N-39°-W	6.30	320以上	335以上	1-4	

第20表 6a1層水田跡大区画6小畦群計測表

No.	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	水田面との比高差 (cm)	備考
s34	N-11°-E	3.93	63-76	87-92	2-3	
s35	N-47°-W	1.05	48-59	95-102	2-3	
s36	N-53°-W	7.26	19-42	44-62	2-6	
s37	N-57°-W	4.38	32-43	55-65	2-4	
s38	N-41°-E	13.37	17-45	36-58	3-5	
s39	N-38°-E	21.56	24-53	43-70	1-7	
s40	N-44°-51°-W	15.13	17-63	43-76	1-7	
s41	N-36°-E	9.15	27-45	40-58	1-3	
s42	N-47°-W	20.79	25-51	39-65	1-6	
s43	N-45°-E	10.33	23-42	37-60	1-2	
s44	N-50°-W	19.68	25-51	40-70	2-4	

は調査区外に延びるため不明であるが、確認された上端幅で最大3.14m、下端幅で最大3.35mを測る。水田面との比高差は1cm～4cmである。

②小畦畔（第50図、第20表）

小畦畔11条が検出された（s34～s44）。大畦畔⑤、⑥に直交または平行するように位置する。上端幅は0.17m～0.76m、下端幅0.36m～1.02mを測り、水田面との比高差は1cm～7cmである。

③水口（第50図）

小畦畔s39・s41・s43・s44に水口が確認された。

④水田区画（第50図、第21表）

水田区画は19区画検出された。面積は30～40m程度の区画が中心である。区画の形状は方形ないしは長方形を呈する。

第21表 6a1層大区画水田跡6水田区画計測表

区画No	最高標高 (m)	最低標高 (m)	平均標高 (m)	区画内最大標高差 (cm)	東辺 (cm)	西辺 (cm)	南辺 (cm)	北辺 (cm)	面積 (㎡)	備考
6-①	2.240	2.217	2.229	2.3	176.7	160.3	54.4	—	0.6以上	
6-②	2.251	2.128	2.212	12.3	571.1	510.0	370.3	136.3	14.7以上	PT5
6-③	2.227	2.178	2.204	4.9	260.0	582.4	433.5	441.9	(33.0)	
6-④	2.203	2.179	2.194	2.4	255.8	207.3	157.6	—	1.7以上	
6-⑤	2.229	2.173	2.204	5.6	693.2	914.5	729.3	583.9	46.7	SX3
6-⑥	2.216	2.149	2.187	6.7	365.7	704.5	420.4	174.9	(30.2)	
6-⑦	2.186	2.134	2.164	5.2	398.6	296.0	219.7	—	3.3以上	
6-⑧	2.240	2.173	2.207	6.7	694.1	649.1	608.3	713.7	(47.9)	
6-⑨	2.217	2.135	2.195	8.2	686.2	668.6	506.5	417.0	(32.6)	
6-⑩	2.197	2.114	2.163	8.3	213.6	657.2	562.3	256.9	(37.6)	
6-⑪	2.176	2.160	2.167	1.6	218.5	176.0	113.6	—	1.0以上	
6-⑫	2.251	2.173	2.223	7.8	446.9	419.1	664.7	692.4	29.6	
6-⑬	2.226	2.181	2.206	4.5	461.4	444.6	423.8	393.0	18.7	
6-⑭	2.202	2.134	2.166	6.8	513.4	486.7	561.9	529.1	28.1	
6-⑮	2.174	2.137	2.159	3.7	509.8	514.6	217.4	147.1	14.7以上	
6-⑯	2.258	2.204	2.235	5.4	633.3	253.8	395.1	647.3	(36.6)	
6-⑰	2.235	2.184	2.208	5.1	533.4	649.8	325.9	409.8	(32.0)	
6-⑱	2.206	2.159	2.187	4.7	121.1	495.3	700.3	581.1	18.5以上	
6-⑲	2.185	2.173	2.181	1.2	—	78.4	143.3	141.0	0.6以上	

※欄外に○：遺構あり

3.6a1層下面検出遺構

SD4 溝跡（第52図）

調査区B区中央部に位置し、畦畔⑤の直下から検出された。大畦畔⑤に沿っていることから、水田跡に伴う遺構であると考えられる。検出長は17.72m、上端幅20cm～160cm、下端幅6cm～156cmである。深さ3cm～15cmで、底面に凹凸がみられ、断面形状は緩やかな弧状を呈する。堆積土は基本層6a1層に類似する黒褐色シルト質粘土を主体とし、基本層7a層のブロックを少量含む。遺物は出土していない

4.6a1層上面検出遺構

6a1層水田跡の上面には、基本層5b層を堆積土とする性格不明遺構やピットが検出されているが、この他、写真図版17-6～9のように、5b層が浅い凹部に堆積している状況も認められた。

(1) 性格不明遺構

SX1 性格不明遺構（第53・54図）

調査区B区南西部に位置する。大畦畔⑤北西辺に沿って



第51図 6a1層下面検出遺構 全体図

いる。長軸 4.02m、短軸 1.52m の不整形を呈する。深さは 5cm～24cm で、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面には凹凸がみられる。堆積土は基本層 5b 層の砂である。遺物は弥生土器 1 点（第 54 図）が出土している。

第 54 図 1 は弥生土器の壺の頸部下端～体部上半の破片である。主線内に LR 縄文を地文とする磨消工文字が施文されている。時期は中期中葉である。

SX2 性格不明遺構（第 53 図）

調査区 B 区南西部に位置する。大睦群⑤北西辺に沿っている。長軸 4.42m、短軸 1.52m の不整形を呈する。深さは 5cm～24cm で、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面には凹凸がみられる。堆積土は基本層 5b 層の砂である。遺物は出土していない。

SX3 性格不明遺構（第 53 図）

調査区 B 区中央部に位置する。長軸 8.84m、短軸 2.04m の不整形を呈する。睦群⑤南東辺に沿う。深さは 10cm～28cm で、断面形は浅い皿状を呈し、底面には僅かに凹凸がみられる。堆積土は基本層 5b 層の砂である。遺物は出土していない。

SX4 性格不明遺構（第 55 図）

調査区 B 区中央部に位置する。長軸 0.73m、短軸 0.56m の不整形を呈する。深さは 21cm で、断面形は弧状を呈し、底面には凹凸がみられる。堆積土は基本層 5b 層の砂である。遺物は出土していない。

SX5 性格不明遺構（第 55 図）

調査区 A 区南西部に位置する。大睦群④南東辺に沿っている。長軸 2.85m、短軸 0.62m の不整形を呈する。深さは 21cm～27cm で、緩やかな弧状を呈し、底面には凹凸がみられる。堆積土は基本層 5b 層の砂である。遺物は出土していない。

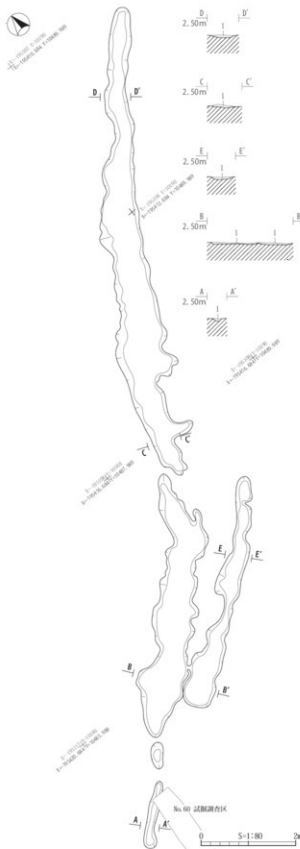
(2) ビット

PTS ビット（第 55 図）

調査区 B 区北側の大睦群⑤上に位置する。長軸 0.67m、短軸 0.52m の不整形を呈する。深さは 9cm で、断面形は緩やかな弧状を呈し、底面に僅かな凹凸がみられる。堆積土は基本層 5b 層の砂である。遺物は出土していない。

(3) 5b 層を堆積土とする浅い凹部（第 56 図）

A 区の南端部の一部と B 区のほぼ全域で確認された不規則な帯状、あるいはアレーバ状の広がりである。睦群に沿うように延びるもの、水田区画内の田面内に広がるものなどがある。幅 10cm～20cm 前後で、水田面か

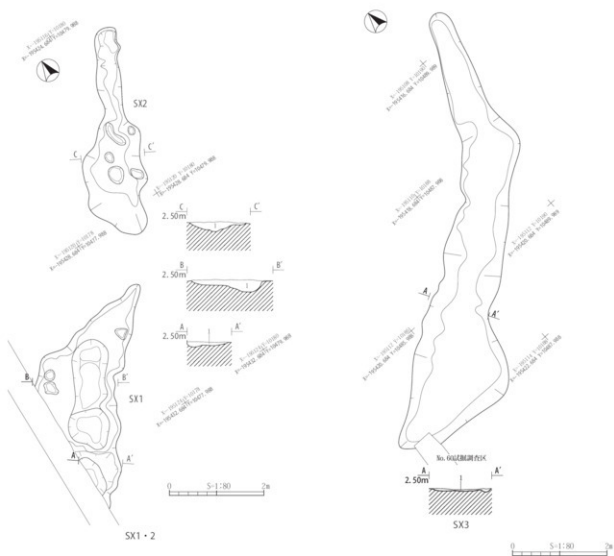


SD4 溝跡土層経記

層名	土質	土質	図入物・備考
1	11YR2.5 黒褐色砂	シロ土質砂土	埋物埋没中葉

第 52 図 SD4 溝跡 平面図・断面図

らの深さは3～5cmほどである。断面形はU字状あるいはレンズ状を呈し、一部ではオーバーハングしている。堆積土は基本層5b層（津波堆積物）である。底面に顕著な凹凸はみられない。



SX1～3 性格不明遺構土層註記

層名	土色	土質	説人物・備考
1	2.55 4/3 オリーブ褐色	砂	基本層5b層土体、下部に6a1層土体

第53図 SX1～3 性格不明遺構 平面図・断面図

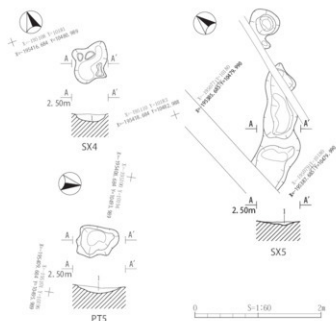


0 5-1:3 10m

SX1 出土遺物観察表

図版番号	種別	器種	調査区	遺構	層位	口径	底径	高さ	外面	内面	備考	写真 図版 番号	登録 番号
54-1	陶土片	磁	東区	SX1	1	—	—	—	表面に文字	3, 5, 6		18-4B-23	

第54図 SX1 性格不明遺構 出土遺物

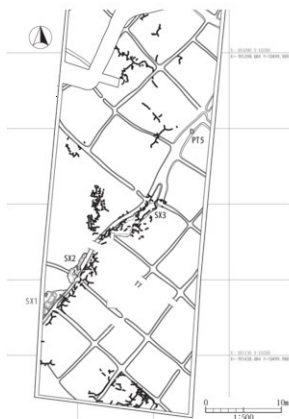


SX4・5 性格不明遺構、PTS ビット 平面図・断面図

SX4・5 性格不明遺構 土層誌記			
層名	土色	土質	記入物・備考
1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	遺木層(5a, 5b)上層、下層に 6a1 層付少量

PTS ビット 土層誌記			
層名	土色	土質	記入物・備考
1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂	遺木層(5a)上層

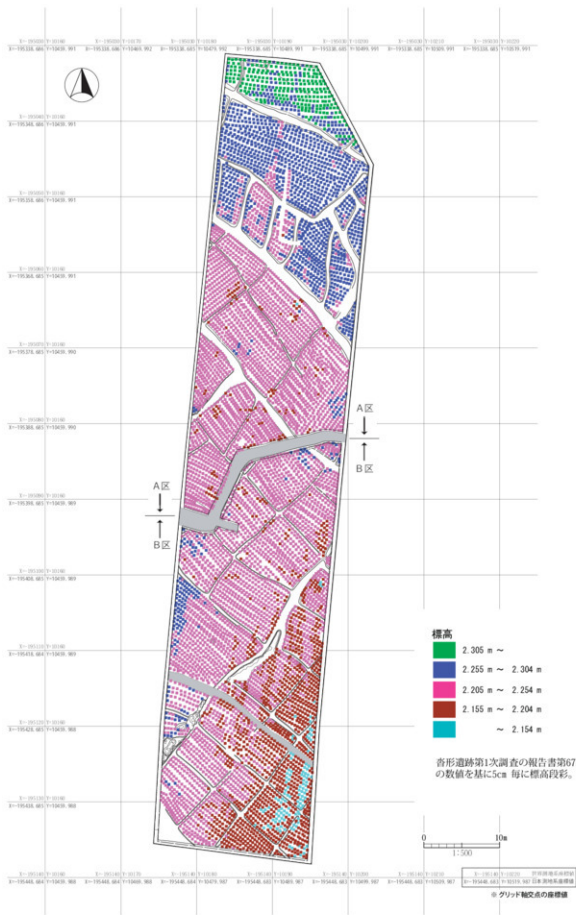
第 55 図 SX4・5 性格不明遺構、PTS ビット 平面図・断面図



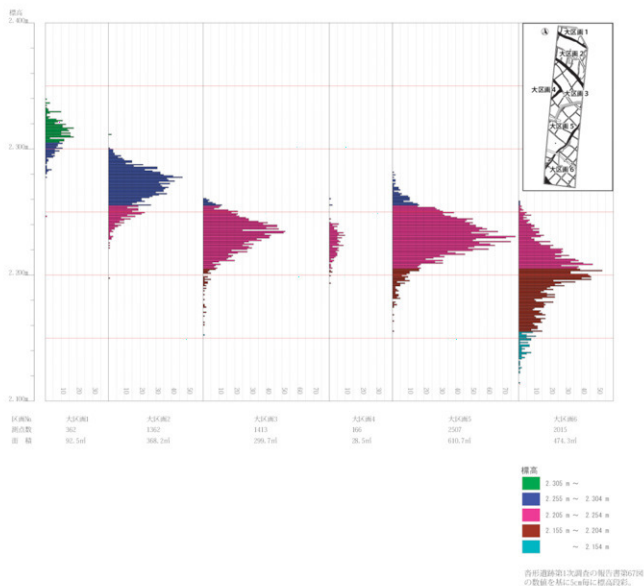
第 56 図 6a1 層上面で検出された遺構及び浅い凹部全体図

第 5 節 小結

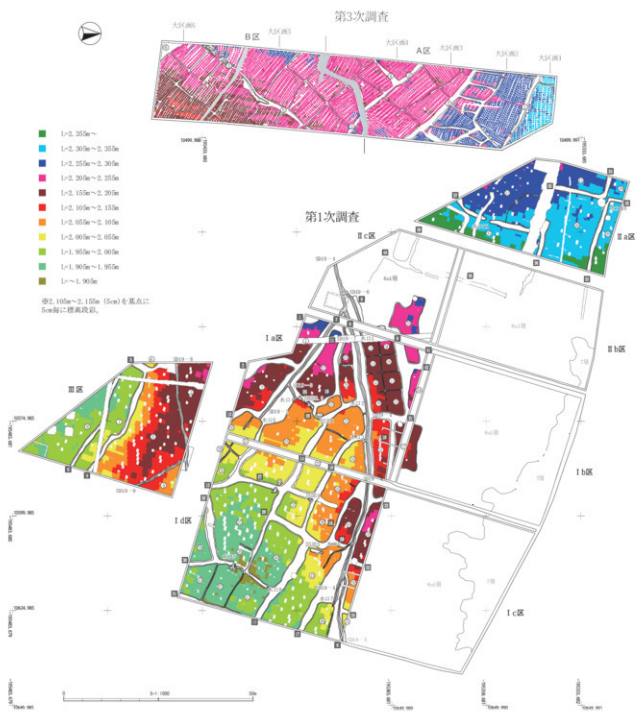
- 発掘調査は、平成 23 年 6 月から 10 月まで行った。調査面積は 2,200 m² である。
- 5b 層上面で、溝跡 3 条、土坑 19 基が検出された。
- 5b 層の調査で、層中から弥生土器が 1 点、敲石が 1 点出土した。
- 弥生時代中期中葉の 6a1 層水田跡が検出された。水田耕作土の 6a1 層は、調査区のほぼ全域に広がっており、残存状況は良好で、ほぼ全域が津波堆積物である基本層 5b 層に覆われていた。6a1 層上面の標高は、2,114 ～ 2,339m、勾配は 0.17 ～ 0.24 である。畦畔は 50 条検出された。大畦畔 6 条、小畦畔 44 条である。水田区画は、大畦畔によって大区画を作り、その中に方形、長方形を基調として小区画が作られている。大畦畔に擬似畦畔 B は認められない。大区画は 6 区画認められ（大区画 1 ～ 6）、平面形が長方形を呈する大区画 3、5、6 は、地形面の勾配に合わせて、長辺を等高線に沿うようにしている。大畦畔②を挟んで、北東に高く南西に低い地形面、南西側は、北西に高く南東に低い地形面の展開が知られる。小区画は 60 区画確認した。小区画の面積は、大区画によってやや異なり、5.5 ～ 72 m² ほどあり、推定も含めると最大で 152 m² の幅があるが、多くは 20 ～ 50 m² である。この小区画を設定するために大区画内に設けられる田面の標高差 10cm 以下の中区画は水田面標高測点分布図から、大区画 6 は標高差 10cm を超えて区画はさらに広がることや、大区画 2 の水田区画⑦～⑩が長辺と等高線が直交する設定がみられることから、その存在が推定される。水田跡の上面には、5b 層を堆積土とする性格不明遺構 SX1 ～ 5 が検出されている。これらは、大畦畔⑤の下端に沿うように、SX1、SX2 が北西側、SX3 が南東側にあり、SX2 によって小畦畔 s33 は途切れている。SX1 ～ 5 の底面は、水田面より標高が低く、底面には凹凸があり、その直上には 6a1 層をブロック状に含んでいる。この遺構が、人為的に作られたものなのか、5b 層の堆積に伴って形成された津波に関わる何らかの痕跡なのかは明らかではないが、今後検討していく必要がある。また、これらの南東側にある大区画 6 の水田面には、浅く不規則な溝状の凹部があり、5b 層の堆積が認められており、SX1 ～ 5 と関連する可能性がある。
- 弥生時代中期中葉以前の水田耕作土：6a2 層は主に B 区に分布が確認された。その面積は、973 m² である。



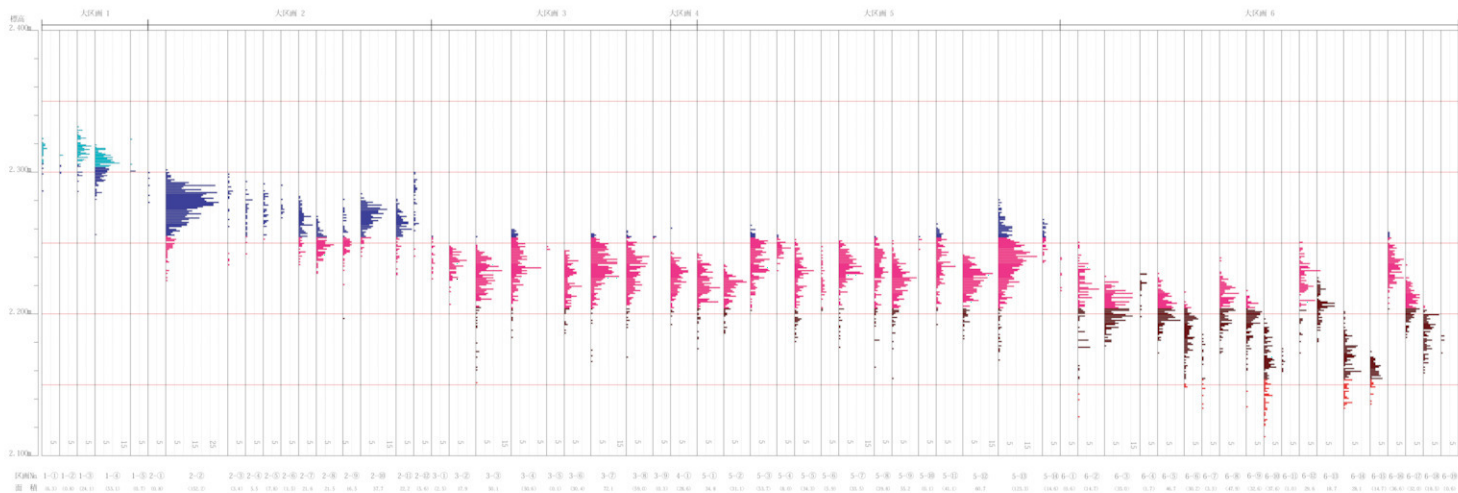
第 57 図 第 3 次調査 6 a1 層水田跡水田面標高測点値分布図 (1)



第58図 第3次調査 6a1 層水田跡水田面標高測点値分布図(2)



第59図 第1・3次調査 6a1 層水田跡水田面標高測点値分布図



- $L=2.305\text{m}\sim$
 - $L=2.255\text{m}\sim 2.304\text{m}$
 - $L=2.205\text{m}\sim 2.254\text{m}$
 - $L=2.155\text{m}\sim 2.204\text{m}$
 - $L=2.1\sim 2.154\text{m}$
- ※面積の ○ は現在値、○ は測定値

第 60 図 第 3 次調査 6a1 層水田域水田面積高測点値分布図 (3)

第5章 総括

1. 検出された水田跡と水田域

杵形遺跡第1次調査では、3a層水田跡（古代～中世）、4a層水田跡（古墳時代前期）、6a1層水田跡（弥生時代中期中葉）、6a2層水田跡（弥生時代中期中葉以前）の4時期の水田跡が検出されていた。

今回の試掘・確認調査、杵形遺跡第2次調査、第3次調査によって、第1次調査で検出されていた4時期の水田跡が検出され、それぞれ水田域の広がりの確認され、それまで約10ヘクタールだった遺跡範囲が、約20ヘクタールに拡大された。

これらの調査で確認された各水田跡の水田域は、以下の通りである。

3a層水田跡は、遺跡北部で、50,000㎡の水田域1箇所、遺跡南部で50,000㎡の水田域1箇所、計約10ヘクタールの水田域が確認された。残存状況が良好ではなく、後世の削平を受けているところが多いため、確認された面積よりも、本来の水田域は広がった可能性がある。

4a層水田跡は、遺跡北部で、第1次調査と第3次調査の成果から16,000㎡の水田域が1箇所確認された。水田一区画の面積は8.5～25㎡である。

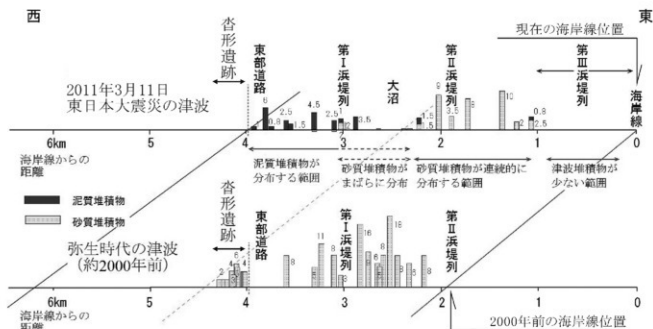
6a1層水田跡は、遺跡のほぼ全域で検出されており、水田域の面積は約20ヘクタールである。第1次調査と同様、水田跡の構造はⅡB類であることが確認された。水田一区画の面積は、第1次調査で16～25㎡、第3次調査で約20～50㎡である。

6a2層水田跡は、遺跡北部において、第1次調査Ⅰ区南東部・Ⅲ区で約2,000㎡の水田域、第3次調査で約1,000㎡の水田域が確認された。

2. 弥生時代の水田跡

4時期の水田跡のうち、最も古い弥生時代の6a2層水田跡は、1,000㎡～2,000㎡の水田域を、標高を異にして2箇所設定しているが、6a1層水田跡は、それより遥かに広い水田域が確認されている。後者は、結果として残された水田域であり、毎年営まれる面積ではないと考えられるが、前者の水田跡に比べると、安定した水田技術体系の存在を示している。これまでの杵形遺跡で出土した遺物から、この二つの水田跡の存続期間は、弥生時代中期前葉から中葉にかけてであり、その間に水田域の拡大が進行したことが明らかにされた。

6a1層水田跡の廃絶に関しては、津波堆積物である基本層5b層の堆積によることが、すでに第1次調査で指



第61図 津波堆積物の分布範囲

※「杵形遺跡第3次発掘調査遺跡発見委員会資料」より転載
(原図：紀本秀博)

摘されている。今回の調査は、その範囲の広がりを確認するとともに、津波被害の大きさを再認識することとなった。

また、香形遺跡西方の自然堤防に立地する中在家南遺跡、押口遺跡には、出土遺物から居住域の存在が推定され、中在家南遺跡では墓域も検出されている。これらの遺跡を含め、香形遺跡とその周辺には、弥生時代中期中葉の集落が存在していたが、いずれの遺跡も、中期後葉には遺構・遺物が検出されておらず、津波被害によって廃絶したと考えられる。

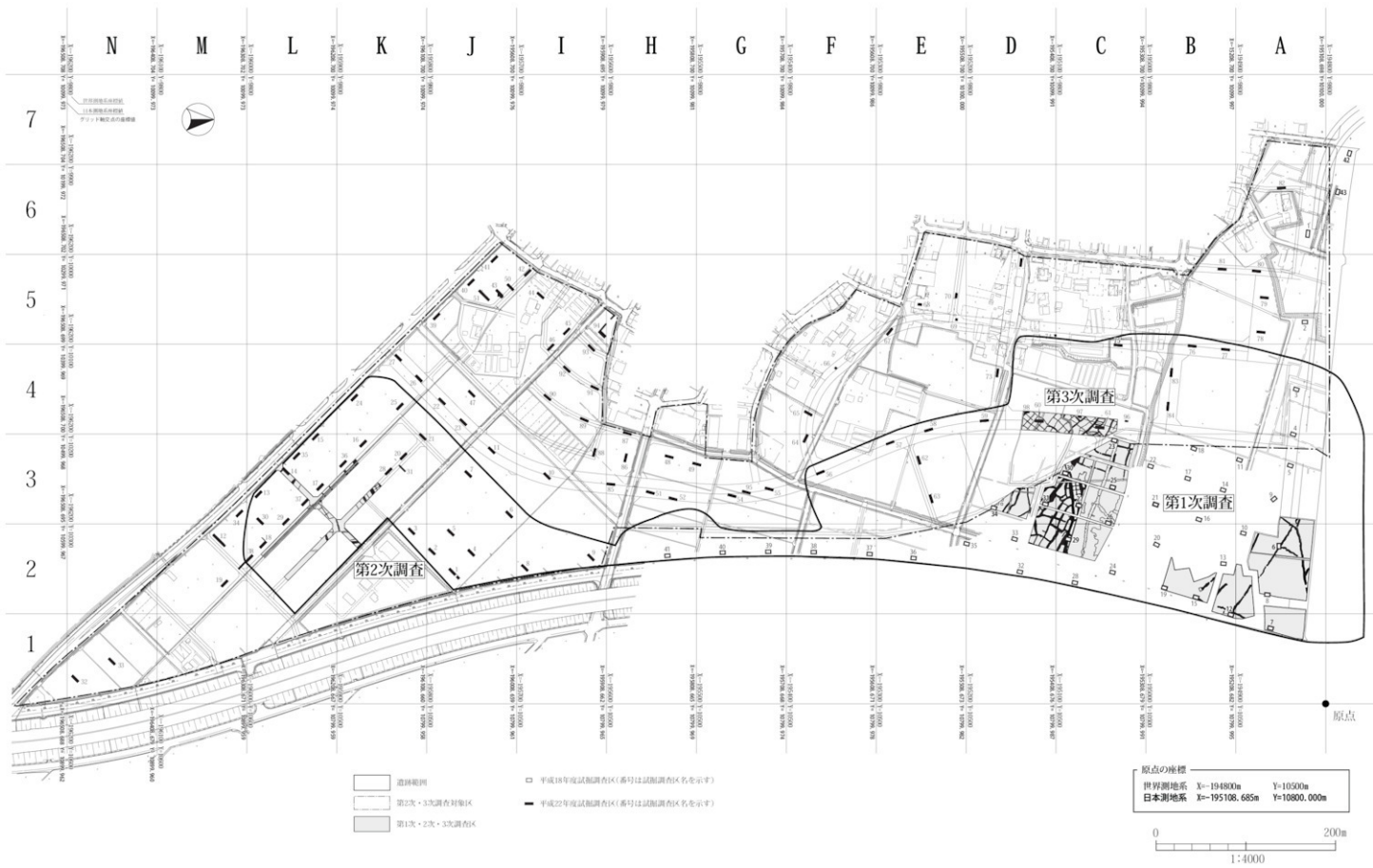
3. 津波堆積物と津波痕跡

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災において発生した大津波の堆積物の調査が松本秀明（東北学院大学地域構想学科：地形学）によって行われ、この津波が 6a1 層水田跡を覆う基本層 5b 層を堆積させた弥生時代中期の津波と同規模であったことが、香形遺跡第 3 次発掘調査見学会資料に報告されている。それは、第 61 図のように、平成 23 年 3 月 11 日の津波は、遡上距離が約 4.0km、津波堆積物のうち、砂質堆積物の海岸線からの分布がその 60% の 2.3km であり、弥生時代中期の津波は、砂質堆積物の海岸線からの分布が 2.5km とほぼ同じで、遡上距離が約 4.2km と算定されていることによる。

香形遺跡の調査は、考古学と地形学が連携することによって、臨海沖積平野に広域に分布する津波堆積物の識別を行ううえで貴重な成果となった。それとともに、遺跡の発掘調査では、被災遺構と認識された 6a1 層水田跡の上面で、基本層 5b 層を堆積土とする性格不明遺構や、基本層 5b 層が浅い凹部に堆積している状況が認められた。それらには、津波痕跡の可能性が指摘されており、遺跡に残された過去の災害の痕跡を明らかにしていくうえで、これからの調査で検討していく必要がある。

引用・参考文献

- 斎野裕彦 2005a 『水田の構造と理解』『古代文化』57 財団法人古代学協会
斎野裕彦 2005b 『水田跡の調査方法及び構造の理解について』『シンポジウム山形県の水田遺構—資料集』57 山形県考古学会
斎野裕彦 2008 『仙台平野』『弥生時代の考古学 8—集落から読む弥生社会』同成社
仙台市教育委員会 1987 『富沢遺跡第 15 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 98 集
仙台市教育委員会 1988 『富沢遺跡第 28 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 114 集
仙台市教育委員会 1991 『富沢遺跡第 30 次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 149 集
仙台市教育委員会 1996 『中在家南遺跡他-仙台市荒井土地区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 213 集
仙台市教育委員会 2000 『高田 B 遺跡』仙台市文化財調査報告書第 242 集
仙台市教育委員会 2002 『中在家南遺跡（第 3・4 次）押口遺跡（第 3 次）発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第 255 集
仙台市教育委員会 2010a 『香形遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第 363 集
仙台市教育委員会 2010b 『沼向遺跡第 4～34 次調査』仙台市文化財調査報告書第 360 集
仙台市教育委員会 2011 『香形遺跡第 3 次発掘調査見学会資料』
藤原 宏志 1984 『垂柳遺跡における水田跡の研究』『垂柳遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 88 集
松本秀明・吉田真幸 2010 『第 1 章第 3 節 仙台市東部香形遺跡にみられる津波堆積物の分布と年代』『香形遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第 363 集



第 62 図 畝形遺跡 第 1 次～3 次調査 全体図

写真図版



1. No.1 調査区 6a1 層水田跡確認状況 (北東から)



2. No.1 調査区 北西壁土層断面 (南東から)



3. No.1 調査区 北西壁土層断面 (東から)



4. No.3 調査区 6a1 層水田跡検出状況 (北東から)



5. No.3 調査区 北東壁土層断面 (南西から)



6. No.3 調査区 南東壁土層断面 (北から)



7. No.43 調査区 流路跡遺物出土状況 (北東から)



8. No.43 調査区 南東壁土層断面 (西から)

図版1 試掘・確認調査 調査区① (No.1・3・43)



1. No.43 調査区 流路跡遺物出土状況（北東から）



2. No.43 調査区 北西壁深掘部土層断面（北西から）



3. No.50 調査区 流路跡検出状況（北東から）



4. No.50 調査区 北西壁土層断面（東から）



5. No.50 調査区 流路跡遺物出土状況（東から）



6. No.50 調査区 流路跡全景（南西から）



7. No.51 調査区 流路跡検出状況（北東から）

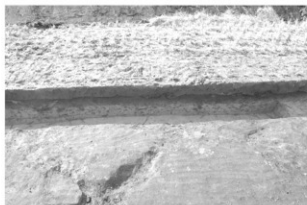


8. No.51 調査区 北西壁土層断面（南東から）

図版 2 試掘・確認調査 調査区② (No.43・50・51)



1. No.55 調査区 6a1 層・SK1 土坑検出状況（北東から）



2. No.55 調査区 北西壁土層断面（南東から）



3. No.55 調査区 SK1 土坑土層断面（北西から）



4. No.55 調査区 SK1 土坑遺物出土状況（北西から）



5. No.94 調査区 全景（北から）



6. No.94 調査区 SD1 溝跡・流路 跡遺物出土状況（北から）



7. No.94 調査区 南壁土層断面（北西から）



8. No.94 調査区 SD1 溝跡土層断面（北西から）

図版 3 試掘・確認調査 調査区③ (No.55・94)



No.43 調査区 出土遺物

縮尺 約 1/3



No.50 調査区 出土遺物

縮尺 約 1/3



No.51 調査区 出土遺物

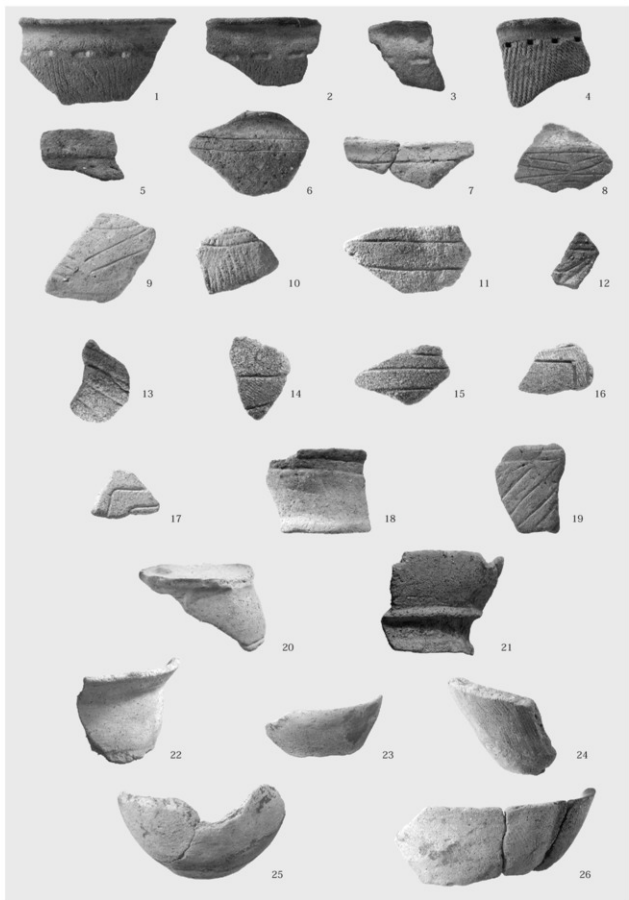
縮尺 約 1/3



No.55 調査区 SK1 土坑出土遺物

縮尺 約 1/3

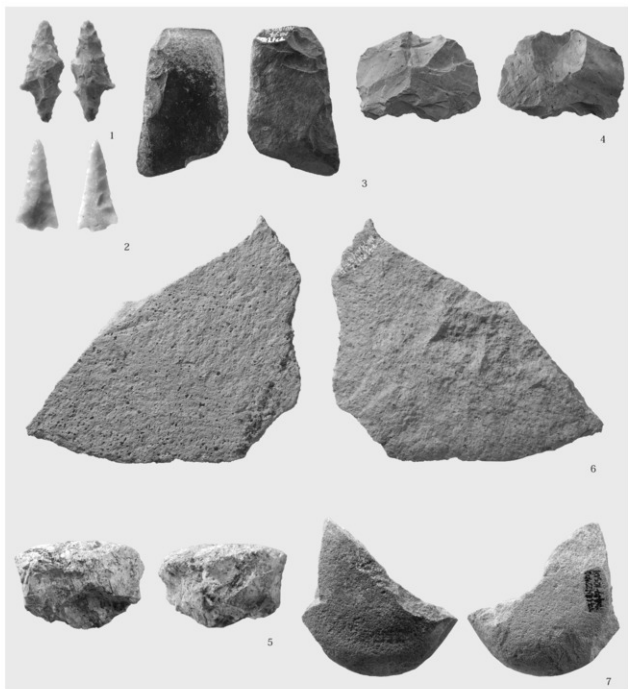
図版 4 試掘・確認調査 出土遺物① (No.43・50・51・55 SK1 土坑)



No.94 調査区 出土遺物①

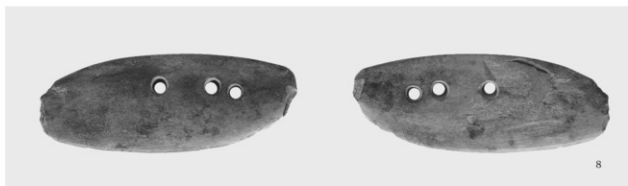
縮尺 約 1/3

図版 5 試掘・確認調査 出土遺物② (No.94)



No.94 調査区 出土遺物②

縮尺 石鏃約 1/1、その他約 2/3



石胞丁（歯形遺跡範囲内で表面採集）

縮尺 約 2/3

図版 6 試掘・確認調査 出土遺物③、石胞丁



1. SD1・2溝跡土層断面（北西から）



2. SD1・2溝跡完掘（北西から）



3. SX3 性格不明遺構土層断面（南から）



4. SX3 性格不明遺構完掘（南から）



5. A 区-1 6a1 層水田跡検出状況（北東から）

図版7 第2次調査 5b 層上面検出遺構、A 区-1 6a1 層水田跡検出状況



1. A区-2 6a1層水田跡検出状況(南西から)



2. C区-1 6a1層水田跡検出状況(東から)

図版8 第2次調査 A・C区6a1層水田跡検出状況



1. C区-2 6a1層水田跡検出状況(北西から)



2. B区-1 6a1層水田跡検出状況(東から)



3. B区-3 6a1層水田跡検出状況(南東から)



4. A・B区-2 交差部 6a1層水田跡小畦群検出状況(北西から)



5. A区-2・B区-3 交差部小畦群(西から)

図版9 第2次調査 A・B・C区6a1層水田跡検出状況



1. B区-3 6a1 層水田跡小畦畔検出状況 (南東から)



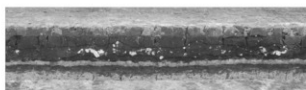
2. C区-2 6a1 層水田跡小畦畔検出状況 (西から)



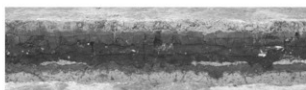
3. C区-1 6a1 層水田跡小畦畔確認状況 (南西から)



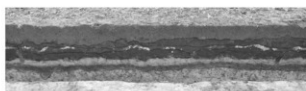
4. C区-1 6a1 層水田跡小畦畔検出状況 (南西から)



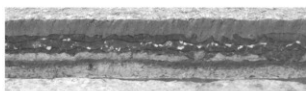
5. A区-1 北西壁中央部土層断面 (南東から)



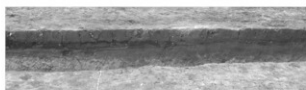
6. A区-1 北西壁北東側土層断面 (南東から)



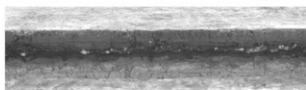
7. A区-2 北西壁南西側土層断面 (南東から)



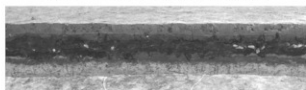
8. A区-2 北西壁北東側土層断面 (南東から)



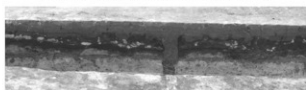
9. B区-1 南西壁北西端土層断面 (北東から)



10. B区-1 南西壁中央部土層断面 (北東から)

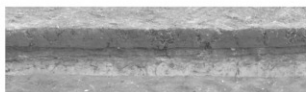


11. B区-1 南西壁南東部土層断面 (北東から)

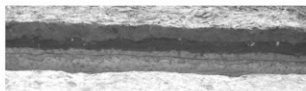


12. B区-2 南西壁北西部土層断面 (北東から)

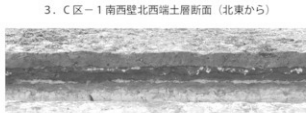
図版 10 第 2 次調査 B・C 区 6a1 層水田跡小畦畔確認・検出状況、調査区基本層断面



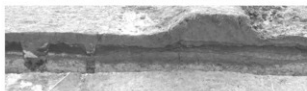
1. B区-2 南西壁中央部土層断面 (北東から)



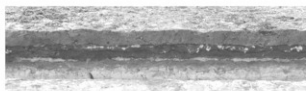
2. B区-2 南西壁南東部土層断面 (北東から)



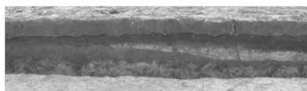
3. C区-1 南西壁北西端土層断面 (北東から)



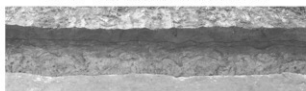
4. C区-1 南西壁中央部土層断面 (北東から)



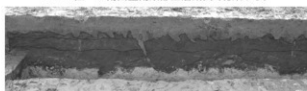
5. C区-1 南西壁南東部土層断面 (北東から)



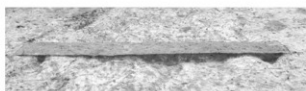
6. C区-2 南西壁南東部土層断面 (北東から)



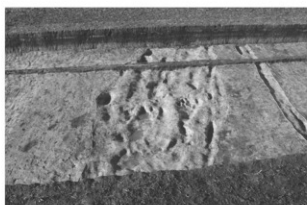
7. C区-2 南西壁中央部土層断面 (北東から)



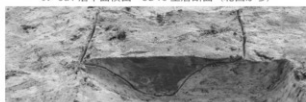
8. C区-2 南西壁南東部土層断面 (北東から)



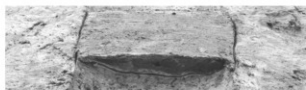
9. 6a1層下面検出 SD16土層断面 (北西から)



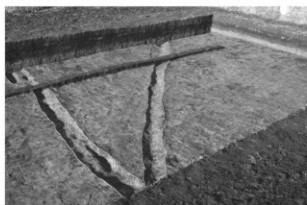
12. 6a1層下面検出 SD17完掘 (南東から)



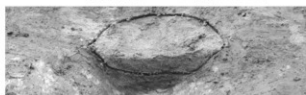
10. 6a1層下面検出 SD17土層断面 (北西から)



11. 6a1層下面検出 SD18土層断面 (北から)



13. 6a1層下面検出 SD17・18完掘 (南から)



14. 6a1層上面検出 SX4土層断面 (北東から)

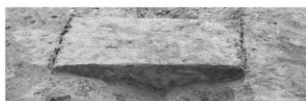
図版 11 第2次調査 調査区基本層断面、6a1層上面・下面検出遺構



1. 6a1層上面検出 SX4完掘（北東から）



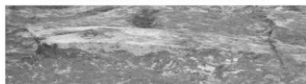
4. 6a1層上面検出 SD10完掘（北から）



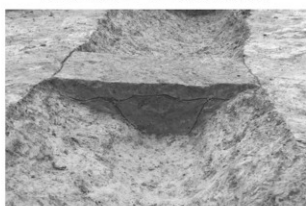
2. 6a1層上面検出 SD10土層断面（北から）



5. 6a1層上面検出 SD11完掘（北から）



3. 6a1層上面検出 SD11土層断面（南から）



6. 7a層上面検出 SD14土層断面（西から）



7. 7a層上面検出 SD14土層断面（西から）



A区2層 出土遺物 縮尺 約1/3



C区6a1層 出土遺物 縮尺 約1/2

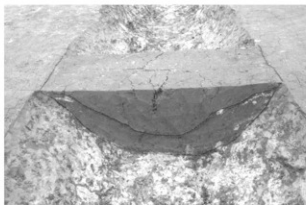
図版 12 第2次調査 6a1層上面・7a層上面検出遺構、出土遺物（A区2層、C区6a1層）



1. SK7 土層断面 (南東から)



2. SK7 完掘 (南東から)



3. SD1 土層断面 (西から)



4. SD1 完掘 (西から)



5. A区 6a1 層水田跡確認状況 (北から)

図版 13 第3次調査 5b層上面検出遺構、6a1層水田跡確認状況



1. B区 6a1層水田跡確認状況（北から）



2. 6a1層水田跡検出状況（南から）

図版 14 第3次調査 6a1層水田跡確認・検出状況



1. 6a1 層水田跡検出状況 (空撮)



2. A区 6a1 層水田跡検出状況 (北西から)



3. A区 6a1 層水田跡確認状況 (北西から)



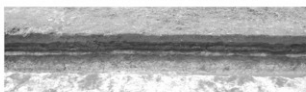
4. A区 6a1 層水田跡検出状況 (北西から)



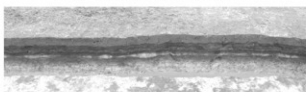
5. B区 6a1 層水田跡検出状況 (北西から)



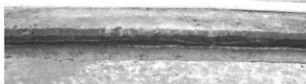
6. B区 6a1 層水田跡検出状況 (南東から)



7. A区北壁西側土層断面 (南から)



8. A区北壁東側土層断面 (南から)



9. A区西壁中央部土層断面 (東から)

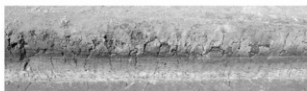


10. A区西壁北側土層断面 (東から)

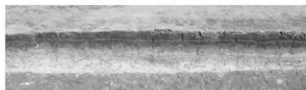
図版 15 第3次調査 6a1 層水田跡確認・検出状況、調査区基本層断面



1. A区東壁北側土層断面（西から）



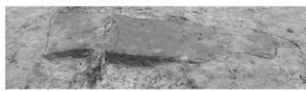
2. B区西壁北側土層断面（東から）



3. B区東壁北側土層断面（西から）



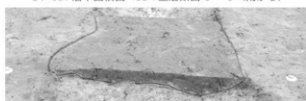
4. B区東壁南側土層断面（西から）



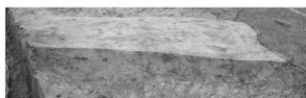
5. 6a1層下面検出 SD4土層断面C-C'（南から）



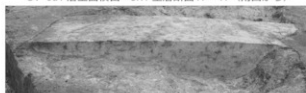
7. 6a1層下面検出 SD4完掘（南西から）



6. 6a1層下面検出 SD4土層断面D-D'（南から）



8. 6a1層上面検出 SX1土層断面A-A'（南西から）



9. 6a1層上面検出 SX1土層断面B-B'（南西から）



10. 6a1層上面検出 SX2土層断面（南西から）



12. 6a1層上面検出 SX3土層断面（南西から）

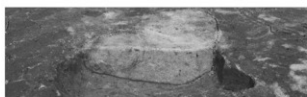


11. 6a1層上面検出 SX1・2完掘（南西から）

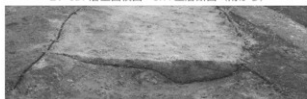
図版 16 第3次調査 調査区基本層断面、6a1層上面・下面検出遺構



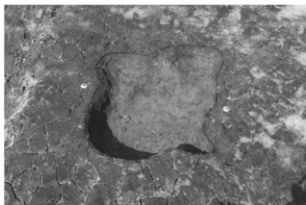
1. 6a1層上面検出 SX3完照(南西から)



2. 6a1層上面検出 SX4土層断面(南から)



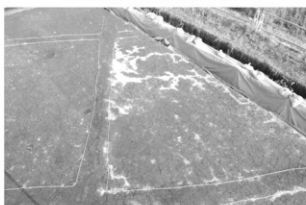
3. 6a1層上面検出 SX5土層断面(南西から)



4. 6a1層上面検出 SX4完照(南から)



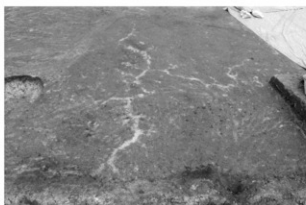
5. 6a1層上面検出 SX5完照(南西から)



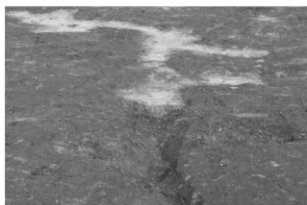
6. B区南端部 6a1層上面浅い凹部検出状況(北西から)



7. B区南端部 6a1層上面浅い凹部完照(北西から)



8. B区北側 6a1層上面浅い凹部検出状況(西から)



9. B区中央部 6a1層上面浅い凹部土層断面(南西から)

図版17 第3次調査 6a1層上面検出遺構・浅い凹部



縮尺 約 1/2

5b層 出土遺物

縮尺 約 2/3



SD1 出土遺物

SX1 出土遺物

縮尺 約 1/2



1. 遺跡見学会① (西から)



2. 遺跡見学会② (南から)



3. 土層転写 (東から)



4. 6a1層 調査風景 (北西から)

図版 18 第3次調査 出土遺物、遺跡見学会・土層転写・調査風景

報告書抄録

ふりがな	くつかたいせきだい2・3じちようさ						
書名	杵形遺跡第2・3次調査						
副書名	仙台市荒井東土地区画整理事業に伴う発掘調査						
巻次	仙台市教育委員会						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第397集						
編著者名	庄子裕美 水野一夫 森元彦 鈴木憲夫						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 電話 022 (214) 8839						
発行年月日	2012年2月29日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	38° 13' 32" 38° 14' 33"	平成22年 3/1 20 日～ 3/1 27 日	2,867 m ²	仙台市荒井東土 地区画整理事業 に伴う発掘調査
くつかたいせき 杵形遺跡	宮城県仙台市 若林区荒井 字久取東地内他	01400	01563	東経	2次調査 平成22年 8/1 20 日～ 12/1 23 日	2,295 m ²	
				3次調査 平成23年 6/1 12 日～ 10/1 28 日	3次調査 2,200 m ²		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
杵形遺跡	生産 遺跡	弥生時代 古墳時代 古代 中世	水田跡 溝跡 土坑 性格不明遺構	弥生土器 石器 土師器 須恵器 中世陶器 近世陶磁器	弥生時代中期中葉の 津波堆積物と それによって廃絶した 水田跡の検出。		
要約	<p>杵形遺跡は、名取川左岸の後背湿地に立地する面積約20haの遺跡で、標高は約2.0mである。</p> <p>平成19年度から平成20年度にかけて実施された第1次調査の結果と同様に、今回の第2・3次発掘調査においても津波堆積物に覆われた弥生時代中期中葉（中在家南式期）の水田跡が検出され、当時の津波被害の大きさが再確認された。</p>						

仙台市文化財調査報告書第397集

沓形遺跡第2・3次調査

- 仙台市荒井東土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 -

2012年2月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区国分町三丁目7番1号

文化財課 ℡ 022 (214) 8839

印刷 株 式 会 社 東 北 プ リ ン ト

仙台市青葉区立町24-24

℡ 022 (263) 1166
